最先端・次世代研究開発支援プログラム

公 募 要 領

平成２２年４月５日

独立行政法人日本学術振興会
(http://www.jsps.go.jp/)

目　　次

Ⅰ　最先端・次世代研究開発支援プログラムの公募内容

１．プログラムの目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．プログラムの特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
３．公募の要件等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
４．応募から交付までのスケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
５．選定方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
６．公表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
７．フォローアップ及び評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
８．助成金に関するルール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
９．「競争的資金の適正な執行に関する指針」 ・・・・・・・・・・・・・ 5
１０．研究成果の公開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１１．研究成果から得られた知的財産権の取扱い ・・・・・・・・・・・・ 6
１２．プログラムにより生じた利益の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅱ　応募される方（研究者）へ

１．応募の前に行っていただくべきこと ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
２．応募書類の作成・提出方法等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

Ⅲ　研究機関の方へ

１．あらかじめ留意していただくべきこと ・・・・・・・・・・・・・・・ １２
２．応募の際に行っていただくべきこと ・・・・・・・・・・・・・・・・ １３
３．申請書類（研究計画調書）の提出等 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １４

（問い合わせ先） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６

本プログラムは、総合科学技術会議の「最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針」（平成22年２月３日）を踏まえた「最先端・次世代研究開発支援プログラムに係る先端研究助成基金の運用基本方針」（平成22年３月15日文部科学大臣決定）に基づき、平成21年度一般会計補正予算に計上された先端研究助成基金の事業として独立行政法人日本学術振興会（以下、「日本学術振興会」という。）が公募するものです。

Ⅰ　最先端・次世代研究開発支援プログラムの公募内容

１．プログラムの目的

最先端・次世代研究開発支援プログラム（以下、「プログラム」という。）は、将来、世界をリードすることが期待される潜在的可能性を持った研究者に対する研究支援制度であり、新たな科学・技術を創造する基礎研究から出口を見据えた研究開発まで、「新成長戦略（基本方針）」（2009年12月30日閣議決定）において掲げられた政策的・社会的意義が特に高い先端的研究開発を支援することにより、中長期的な我が国の科学・技術の発展を図るとともに、我が国の持続的な成長と政策的・社会的課題の解決に貢献することを目的としています。

２．プログラムの特徴

（１）我が国の科学・技術の発展を強力に推進するためには、将来の活躍が期待される若手研究者、女性研究者又は地域の研究機関等で活動する研究者の潜在的な人材力の発揮が不可欠であることから、
① 自己の責任において主体的に研究を進めることが可能な若手研究者又は女性研究者を対象とするとともに、
② 支援の対象となる研究者・研究課題の決定にあたっては、研究者の性別並びに研究者及び研究内容の地域性を考慮します。

（２）我が国が持つ強みを活かした持続的な成長を図るため、
○ 新たな科学的・技術的知見の「発掘」
○ 多様な分野の科学的・技術的知見の「統合」によるブレークスルー技術の創出
○ 革新的技術の戦略的な推進
○ 研究開発成果の実利用・普及のための社会システムの転換、　等
によるグリーン・イノベーション又はライフ・イノベーションを推進します。

この中では、新たな科学・技術を創造する基礎研究から出口を見据えた研究開発まで、人文・社会科学的側面からの取組を含め、挑戦的な研究課題を幅広く対象とします。

（３）プログラムに基づいて交付される資金（以下、「助成金」という。）は、研究期間中、翌年度への繰越ができるなど、多年度にわたり柔軟に使用することが可能です。

３．公募の要件等

（１）応募できる研究者の要件

次の１）～３）の全ての要件を満たす者を対象とします。

１）国籍・所属機関について、次のア）又はイ）のいずれかの要件を満たすこと。

ア）応募時に、我が国の研究機関に所属する研究者（外国籍を含む。）

イ）海外在住の研究者（外国籍を含む。）で、我が国の研究機関に所属する予定の者（助成金の交付申請時までに我が国の研究機関に所属すること）

２）年齢・性別について、次のア）又はイ）のいずれかの要件を満たすこと。

ア）平成22年４月１日時点で、満45歳以下の者
ただし、医学系の博士課程修了者、臨床研修終了者又は育児休暇取得者については、次のとおりとする。

① 医学、歯学又は獣医学を履修する４年制の博士課程修了者（次の②、③を除く）：満46歳以下
② 法律（医師法（平成12年の法改正前）、歯科医師法又は獣医師法）に定める臨床研修を修了した者で、医学（次の③を除く）、歯学又は獣医学を履修する４年制の博士課程修了者：満47歳以下
③ 医師法（平成12年の改正法）により義務付けられた２年以上の臨床研修を終了した者で、医学を履修する４年制の博士課程修了者：満48歳以下
④ 過去５年以内（平成17年４月２日以降）に育児休暇を取得した者：満47歳以下（上記①～③に該当する者の場合は、①～③の上限年齢をそれぞれ２歳引き上げる。）

イ）女性研究者（年齢は問わない。）

3）助成金の交付申請時までに、所属機関において、自己の責任で主体的に研究を進める立場にあること。

なお、研究グループによる研究実施も可能ですが、その場合、上記の要件を満たす研究代表者が研究課題の遂行に全ての責任を負う体制を組織するものとします。（助成金は研究代表者１人に交付されます。）

（２）研究課題の要件

1）以下によりグリーン・イノベーション又はライフ・イノベーションの推進に幅広く寄与する課題を対象とします。
○ 新たな科学的・技術的知見の「発掘」
○ 多様な分野の科学的・技術的知見の「統合」によるブレークスルー技術の創出
○ 革新的技術の戦略的な推進
○ 研究開発成果の実利用・普及のための社会システムの転換、 等

【期待される研究課題の例示】

① 科学・技術によるグリーン・イノベーションの推進

グリーン・イノベーションには、地球温暖化を克服し、持続的発展が可能な社会の実現を目指した、幅広い多様な科学・技術革新及び社会革新が含まれる。環境・資源・エネルギー・食料等の分野にこだわることなく、斬新な発想で以下の例示のような課題解決に挑戦することが期待される。
・地球環境の観測・評価・予測の高度化
・温暖化緩和に向けた低炭素化、再生可能エネルギーへの転換、低炭素化ものづくりの革新、情報通信技術の活用による革新的低炭素化等
・気候変動への適応、環境先進社会インフラ創り等
・自然共生、生物多様性・生態系の保全等
・環境先進社会への社会経済システムの転換、ライフスタイルの変革等
・国際連携による環境・エネルギー革新
・環境・エネルギー先進産業のシーズ創出 等

② 科学・技術によるライフ・イノベーションの推進

ライフ・イノベーションでは、生命機能や疾患原因の解明等の基礎研究から出口を見据えた研究開発まで、健康社会の実現を目的とした先端的な研究開発を幅広く推進する。医療・介護等の分野や以下の例示にとらわれることなく、斬新な発想により課題解決に挑戦することが期待される。
・生命機能の解明
・疾患原因の解明（社会的背景や生活習慣等を含む。）
・革新的な医薬品・医療機器の研究開発
・高齢者・障害者の支援に資する介護技術の研究開発や社会福祉システムの構築
・患者に負担の少ない早期診断に資する研究開発
・健康国家の実現に資する革新的な予防医学研究
・情報通信技術の活用等による医療システムの変革
・画期的な医療制度改革や社会保障制度の改善 等

2）新たな科学・技術を創造する基礎研究から出口を見据えた研究開発までを対象とします。

３）人文・社会科学的側面からの取組を含め、世界的・国民的な課題の解決に貢献する挑戦的な取組を対象とします。

（３）研究期間

４年以内（平成２２年度から平成２５年度の間）

（４）助成金額の上限額（応募可能額）

１件あたりの助成金額は、研究期間に応じて、年度数×５千万円、総額２億円を上限とします。（研究代表者の所属する研究機関に交付する間接経費（直接経費の30%）を含む。）

なお、応募額は、上記上限額にとらわれず研究計画の実施に必要な額としてください。（少額であっても差し支えありません。）

（５）採択件数

３００件程度を目安とします。

４．応募から交付までのスケジュール

（１）応募書類提出まで

平成22年４月５日（月）公募開始

⇩

５月20日（木）17時
府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による申請締切
５月18日（火）～ 20日（木） 10時から12時まで及び13時から17時まで
日本学術振興会への応募書類提出期間（厳守）

応募にあたっては、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による申請と日本学術振興会への応募書類の提出の両方が必要となります。応募方法については、「Ⅱ　応募される方（研究者）へ、Ⅲ　研究機関の方へ」を熟読の上、手続きに遺漏のないよう留意してください。

（２）応募書類提出後（予定）

平成２２年　５月～１０月	**審査**
平成２２年１１月	**研究者・研究課題の決定（交付内定）**
１２月	**交付申請、交付決定**
１月	**助成金の送金**

なお、交付内定通知受領後は、研究を開始することが可能です。

５．選定方法

（１）選定手順

①　日本学術振興会による審査

・専門家により構成される審査委員会を設け、審査を行います。
・その際、応募書類に基づく書面審査と必要に応じて応募者からのヒアリングを行います。
（ヒアリングについては、対象者に書面で通知し、８～９月頃に実施する予定です。通知からヒアリングの実施までの期間が比較的短くなる可能性がありますので、あらかじめ承知おきください。）
・日本学術振興会は、審査結果をとりまとめ、文部科学省を通じて、総合科学技術会議の下に置かれる「次世代プログラム運営会議」（以下、「運営会議」という。）に報告します。

② 運営会議による審議・検討
・運営会議は、日本学術振興会がとりまとめた審査結果について検討を行い、「研究者・研究課題」の決定案を作成し、総合科学技術会議に提出します。

③ 総合科学技術会議による決定
・総合科学技術会議は、運営会議からの報告を基に、「研究者・研究課題」を決定します。

（２）審査にあたっての視点

プログラムの審査にあたっては、以下のような視点を考慮して審査を行います。

① 研究者の適切性

○ 研究者は将来、世界の科学・技術をリードしうる潜在的可能性を有しているか。
○ 研究者は研究課題を自己の責任で主体的に研究を進める体制
（例えば、大学等に所属する研究者の場合、
・固有の研究スペースを有していること
・学生や他の研究員等の指導を行う立場にあること
・自己の研究に係る論文については、責任著者の立場であること
・自己の責任と権限により、使用することが可能な研究費を有していること　等）
が確立されているか、もしくは確立される見込みが立っているか。

② 研究課題の適切性

○ 柔軟な発想や斬新な手法等に基づく、独創性や革新性の高い研究課題であるか。
○ 当該研究分野における重要な研究課題であり、世界をリードするような成果が期待できるか。
○ 地球温暖化の克服（「グリーン・イノベーション」）や健康社会の実現（「ライフ・イノベーション」）に対し、大きなインパクトを与え得る研究課題であるか。
○ 研究成果が新たな科学・技術を創造し、幅広い分野の研究を進展させる等、我が国の科学・技術の発展への寄与が期待できるか。

③ 女性研究者・地域性の考慮

採択にあたっては、先端的研究開発にふさわしい質の高い研究課題であることを前提としますが、プログラムの趣旨に基づき、採択件数に占める女性研究者の割合（30%を目標）や都道府県ごとの採択目安（都道府県ごとに最低１件)、地域の特色を生かした提案の優先などについても考慮することとします。

６．公表

応募状況及び選定結果等については、総合科学技術会議による公表とともに、日本学術振興会が設けるプログラム専用ホームページにも掲載します。

７．フォローアップ及び評価

（１）採択後は、毎年度、日本学術振興会へ助成金の管理状況や研究進捗状況について報告を行うとともに、運営会議がフォローアップを実施します。

（２）運営会議は、研究開発開始後２年度経過時を目途に中間評価を実施するとともに、研究開発終了後に事後評価を実施します。

８．助成金に関するルール

（１）助成金の執行にあたっては、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号)」が適用されます。

（２）助成金は、国民の貴重な税金等でまかなわれています。助成金の交付を受ける研究者には、法令及び助成金交付条件等にしたがい、これを適正に使用する義務が課せられています。なお、交付申請時には、助成金の不正な使用等を行わないことを確認します。
　また、研究資金の適正な使用を確保する観点から、助成金の管理は、研究者の所属する研究機関が行うこととしておりますので、十分ご理解の上、応募してください。

（３）応募書類に記載した内容が虚偽であったり、関係法令・指針等に違反し、研究計画を実施した場合には、助成金の交付をしないことや、助成金の交付を取り消すことがあります。

９.「競争的資金の適正な執行に関する指針」

「競争的資金の適正な執行に関する指針」（平成17年９月９日競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ）は、競争的資金について、不合理な重複・過度の集中の排除、不正受給・不正使用及び研究論文等における研究上の不正行為に関するルールを関係府省において申し合わせるものです。
　プログラムの実施においても、この指針等に基づき、適切に対処しますので、以下の点に留意してください。

（１）不合理な重複及び過度の集中の排除
①　府省共通研究開発管理システム（e-Rad）を活用し、「不合理な重複又は過度の集中」（注）の排除を行うために必要な範囲で、応募内容の一部に関する情報を、他府省を含む他の競争的資金担当課（独立行政法人等である配分機関を含む。）間で共有することになります。
②　研究計画調書の作成に当たり、他府省を含む他の競争的資金等の応募・受入状況の記入内容（研究費の名称、研究課題名、研究期間、エフォート等）について、事実と異なる記載をした場合は、研究課題の不採択、採択取消し又は減額配分とすることがあります。

※「エフォート」とは、研究者の全仕事時間（研究活動のみならず、教育、管理業務等を含む）に対する当該研究の実施に必要とする時間の配分割合（％）のことです。

（２）不正使用、不正受給又は研究上の不正行為への対応
①　研究費の不正使用、不正受給を行った研究者及びそれに共謀した研究者や、研究上の不正行為を行った研究者（不正行為に関与したとまでは認定されなかったものの、当該論文の責任者としての注意義務を怠ったこと等により一定の責任があるとされた者を含む）に対しては、本事業への申請及び参加が以下の期間制限されるとともに、当該課題に対する資金の全部又は一部の返還を求めることがあります。

〔研究費の不正使用、不正受給〕

（ⅰ）不正使用等を行った場合は、助成金の返還が命じられた年度の翌年度以降２年間（（ⅱ）の場合を除く）。

（ⅱ）不正使用等を行い、本事業以外の用途への使用があった場合は、助成金の返還が命じられた翌年度以降２～５年間の間で、その内容等を勘案して相当と認められる期間

〔研究上の不正行為〕

（ⅰ）不正行為に関与したと認定された者については、２～１０年間の間で、その内容等を勘案して相当と認められる期間

（ⅱ）不正行為に関与したとまでは認定されないものの、当該行為について、一定の責任を負う者として認定された者については１～３年間の間でその内容等を勘案して相当と認められる期間

②　研究費の不正使用、不正受給又は研究上の不正行為を行い、現在、競争的資金の交付対象から除外されている研究者については、助成金を交付しません。
　なお、適用される「競争的資金制度」については、平成22年度に新たに公募を開始する制度を含みます。また、平成21年度以前に終了した制度においても対象となることがあります。

※ 現在、具体的に対象となる制度につきましては、以下のＨＰをご覧ください。
http://www8.cao.go.jp/cstp/compefund/06ichiran.pdf

③　プログラムの実施において、研究費の不正使用、不正受給又は研究上の不正行為を行った者の当該不正の概要（研究機関等における調査結果の概要、関与した者の氏名、所属機関、研究課題、予算額、研究年度、不正の内容、講じられた措置の内容等）は、他の府省等の競争的資金担当課（独立行政法人等である配分機関を含む）に提供することがあります。これにより、他の競争的資金制度においても申請及び参加が制限されることがあります。

※「申請及び参加」とは、新規課題の提案、応募、申請を行うこと、または共同研究者等として新たに研究に参画することを指します。

（注）不合理な重複又は過度の集中の排除

「競争的資金の適正な執行に関する指針」−抜粋−
（平成17年９月９日競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ（平成21年3月27日改正））

２．不合理な重複・過度の集中の排除

１）不合理な重複・過度の集中の考え方

① この指針において「不合理な重複」とは、同一の研究者による同一の研究課題（競争的資金が配分される研究の名称及びその内容をいう。以下同じ。）に対して、複数の競争的資金が不必要に重ねて配分される状態であって、次のいずれかに該当する場合をいう。
○実質的に同一（相当程度重なる場合を含む。以下同じ。）の研究課題について、複数の競争的資金に対して同時に応募があり、重複して採択された場合
○既に採択され、配分済の競争的資金と実質的に同一の研究課題について、重ねて応募があった場合
○複数の研究課題の間で、研究費の用途について重複がある場合
○その他これらに準ずる場合

② この指針において「過度の集中」とは、同一の研究者又は研究グループ（以下「研究者等」という。）に当該年度に配分される研究費全体が、効果的、効率的に使用できる限度を超え、その研究期間内で使い切れないほどの状態であって、次のいずれかに該当する場合をいう。
○研究者等の能力や研究方法等に照らして、過大な研究費が配分されている場合
○当該研究課題に配分されるエフォート(研究者の全仕事時間に対する当該研究の実施に必要とする時間の配分割合(%))に比べ、過大な研究費が配分されている場合
○不必要に高額な研究設備の購入等を行う場合
○その他これらに準ずる場合

１０．研究成果の公開

研究者及び所属研究機関は、プログラムの実施により得られた研究成果について、論文発表、学会発表、特許出願等を積極的に進めるとともに、わかりやすく国民に広く発信、公開するものとします。

１１．研究成果から得られた知的財産権の取扱い

研究者がプログラムを実施することにより取得した知的財産権の帰属については、適正に管理・活用されるよう所属研究機関に帰属するものとします。

１２．プログラムにより生じた収益の取扱い

研究者及び所属研究機関において、プログラムの実施により収益が生じたときは、助成金の全部又は一部に相当する金額を日本学術振興会に納付させることができるものとします。

Ⅱ　応募される方（研究者）へ

１．応募の前に行っていただくべきこと

応募の前に行っていただく必要があるのは、(1)応募資格の確認、(2)電子申請システムを利用するための確認、(3)重複制限等の確認の３点です。

（１）応募資格の確認

応募資格としては、Ｐ１「Ｉ．３（１）応募できる研究者の要件」の他に、下記の１）及び２）を満たす必要があります。

１）応募時点において、研究機関に所属する研究者として、当該研究機関から「府省共通研究開発管理システム（e-Rad)」(以下「e-Rad」という。）に研究者情報が登録されている研究者であること。

２）競争的資金で、不正な使用、不正な受給又は不正行為を行ったとして、平成22年度に、「その交付の対象としないこと」とされていないこと。

（２）電子申請システムを利用するための確認

１）研究者情報のe-Radへの登録の確認

応募する研究者は、まず、e-Radへ研究者情報の登録を行っていただく必要があります。

e-Radへの登録は、応募者が直接手続きを行うのではなく、所属する研究機関がe-Radにより手続を行うため、研究者は、所属する研究機関が行う登録手続（研究機関内での登録期限や現在の登録状況確認方法等）について、所属研究機関に確認してください。(既に登録されている者であっても登録内容（「所属」、「職」等）に修正すべき事項がある場合には正しい情報に更新する必要があります。)

なお、研究グループでの応募の場合、応募者以外の研究者については、e-Radへの登録や登録確認の必要はありません。

２）ＩＤ・パスワードの取得

応募にあたっては、e-Radにログインした上で電子申請システムにアクセスし、応募書類を作成する必要がありますので、所属する研究機関からｅ-RadのＩＤ・パスワードの付与を受けてください。

なお、既にe-RadのＩＤ・パスワードを付与されている場合には、再取得する必要はありません。

（３）重複制限等の確認

限られた財源で、できるだけ多くの優れた研究課題及び研究者を支援する必要があること、応募件数の増加により適正な審査の運営に支障を来すおそれがあることから、以下の制限を設けることとします。

１）重複応募の制限

①　<u>１人の研究者がこのプログラムに複数の研究課題を応募することはできません。</u>

②　<u>１つの研究課題について２人以上の研究者が応募することはできません。</u>

研究グループで研究を実施する場合、グループを代表する研究者１人が応募することとし、１つの研究課題について複数の研究者が重複して応募することはできません。

２）受給制限のルール

現在、国からの競争的資金を受け、他の研究開発に従事している研究者については、プログラムへの応募段階において、当該研究開発を終了させることは求めませんが、プログラムに採択され、プログラムによる研究開発を実施する場合、他の研究開発を遅くとも平成22年度中に終了していただく必要があります。

なお、国からの競争的資金であっても、研究開発を直接の目的としない事業（世界トップレベル研究拠点プログラム（ＷＰＩプログラム）やグローバルＣＯＥプログラムなど）は対象となりません。

3）その他の留意点

① 採択された後に、当該課題についての研究の責務が果たせなくならないよう十分留意してください。

② 電子申請システム上で応募が受け付けられても、その後、重複応募制限により審査に付されない場合があります。応募書類の提出前に重複制限等を十分確認してください。

２．応募書類の作成・提出方法等

（１）応募書類の作成

応募に必要な書類は、「最先端・次世代研究開発支援プログラム研究計画調書」（以下「研究計画調書」という。）です。

研究計画調書は、以下の２つから構成されており、それぞれ作成方法等が異なりますので、ご留意ください。

Ⅰ．応募情報：e-Radの「電子申請システム」により応募情報（Web入力項目）を入力し、登録する。

Ⅱ．応募内容ファイル：様式を日本学術振興会の最先端・次世代研究開発支援プログラムホームページ（http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/index.html）からダウンロードして作成する。
作成後に、e-Radの「電子申請システム」にアクセスし、先に入力した応募情報に応募内容ファイル（添付ファイル項目）を添付する。

（２）応募書類の提出方法

作成した研究計画調書については、所属する研究機関を経由して、e-Radによる送信と紙媒体による提出(応募内容ファイルのみ）の両方が必要になりますので、事前に提出方法や提出期限について、研究機関の担当部局と調整してください。〔研究計画調書（応募内容ファイル）の提出部数：30部〕

（３）研究計画調書の作成に当たって留意していただくべきこと

研究計画調書の作成に当たっては、次のような点について、問題がないか確認してください。

１）公募の対象とならない研究計画でないこと。
次の研究計画は公募の対象としていません。

ア 単に既製の研究機器の購入を目的とする研究計画
イ 他の経費で措置されるのがふさわしい大型研究装置等の製作を目的とする研究計画
ウ 商品・役務の開発・販売等を直接の目的とする研究計画（商品・役務の開発・販売等に係る市場動向調査を含む。）
エ 業として行う受託研究
オ 研究期間のいずれかの年度における研究経費の額が10万円未満の研究計画

２）経費（直接経費）について次の要件を満たしていること。

① 対象となる経費
研究計画の遂行に必要な経費及び研究成果の取りまとめに必要な経費を対象とします。
経費の区分は、物品費、旅費、謝金・人件費等及びその他の４区分とし、それぞれの使途については、別表のとおりです。
なお、研究計画のいずれかの年度において、「物品費」、「旅費」又は「謝金・人件費等」のいずれかの経費が90％を超える研究計画の場合には、当該経費の研究遂行上の必要性について、研究計画調書に記載しなければなりません。

② 対象とならない経費
次の経費は対象となりません。
ア 建物等の施設に関する経費（直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付費等のための経費を除く。）

イ　研究機関で通常備えが必要な備品を購入するための経費
ウ　補助事業遂行中に発生した事故・災害の処理のための経費
エ　その他、間接経費㈱を使用することが適切な経費

㈱ 研究計画の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費（直接経費の30％に相当する額）であり、研究機関が使用するものです。（間接経費の使途については、別表参照）

③　研究計画調書に含まれる個人情報は、競争的資金の不合理な重複や過度の集中の排除、プログラムの業務のために利用（データの電算処理及び管理を外部の民間企業に委託して行わせるための個人情報の提供を含む。）する他、e-Rad経由で内閣府が作成する政府研究開発データベースに情報提供することがあります。

なお、採択された個々の研究課題に関する情報（制度名、研究課題名、所属研究機関名、研究代表者名、予算額及び実施期間）については、独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律第５条第１号イに定める「公にすることが予定されている情報」に該当するものとして、報道発表資料等により公開します。

（別表）

「直接経費の使途」

（１）物品費
○ 備品、消耗品等を購入するための経費
○ 主としてプログラムの研究開発に用いる研究開発設備の設置・機器の購入のための経費

※研究開発施設を整備するための経費は支出できない。

（２）旅 費
○ 研究者及び研究支援者・研究補助者の海外・国内出張（資料収集、各種調査、打合せ、研究開発成果発表等）のための経費(交通費、宿泊費、日当)

（３）謝金・人件費等
○研究開発への協力（資料整理、実験補助、翻訳・校閲、専門的知識の提供、アンケートの配付・回収、研究資料の収集等）をする者に係る謝金、報酬、賃金、給与、労働者派遣業者への支払いのための経費（雇用契約を行う場合は、助成金を交付された研究者の所属機関が契約の当事者となること）

（４）その他
○上記のほか当該研究課題を実施するための経費（以下は、具体例）
印刷費、複写費、現像・焼付費、通信費（切手、電話等)、運搬費、専用施設の借料（研究開発を実施する機関が保有する施設では、研究課題の実施が困難な場合に限る)、会議費（会場借料、食事（アルコール類を除く）費用等）、レンタル費用（コンピュータ、自動車、実験機器・器具等）、機器修理費用、旅費以外の交通費、研究成果発表費用（学会誌投稿料、ホームページ作成費用、研究成果広報用パンフレット作成費用))

「間接経費の使途」

助成金を交付された研究者の所属機関において、当該研究遂行に関連して間接的に必要となる経費のうち、以下のものを対象とする。

○管理部門に係る経費
－管理施設・設備の整備、維持及び運営経費
－管理事務の必要経費
備品購入費、消耗品費、機器借料、雑役務費、人件費、通信運搬費、謝金、国内外旅費、会議費、印刷費
など

○研究部門に係る経費
－共通的に使用される物品等に係る経費
備品購入費、消耗品費、機器借料、雑役務費、通信運搬費、謝金、国内外旅費、会議費、印刷費、新聞・雑誌代、光熱水費
－当該研究の応用等による研究活動の推進に係る必要経費
研究者・研究支援者等の人件費、備品購入費、消耗品費、機器借料、雑役務費、通信運搬費、謝金、国内外旅費、会議費、印刷費、新聞・雑誌代、光熱水費
－特許関連経費
－研究棟の整備、維持及び運営経費

－実験動物管理施設の整備、維持及び運営経費
－研究者交流施設の整備、維持及び運営経費
－設備の整備、維持及び運営経費
－ネットワークの整備、維持及び運営経費
－大型計算機（スパコンを含む）の整備、維持及び運営経費
－大型計算機棟の整備、維持及び運営経費
－図書館の整備、維持及び運営経費
－ほ場の整備、維持及び運営経費
など

○その他の関連する事業部門に係る経費
－研究成果展開事業に係る経費
－広報事業に係る経費
など

※上記以外であっても、研究機関の長が研究課題の遂行に関連して間接的に必要と判断した場合、執行することは可能である。なお、直接経費として充当すべきものは対象外とする。

Ⅲ　研究機関の方へ

応募する研究者がいる場合は、研究機関がとりまとめ、以下の要領で応募していただく必要がありますので、ご留意ください。

特に、応募する研究者の応募資格は必ず確認してください。

１．あらかじめ留意していただくべきこと

（１）研究機関としての要件の確認

研究者が本プログラムによる研究活動を行うためには、研究機関は、以下の要件を満たさなければなりませんのでご留意ください。

〈要件〉
① 助成金が交付された場合に、その研究活動を、当該研究機関の活動として行わせること
② 助成金が交付された場合に、機関としてその助成金の管理を行うこと

（２）研究者情報のe-Radへの登録

応募しようとする研究者は、e-Radに研究者情報が登録されている者でなければなりません。
応募に当たって必要な研究者情報の登録（更新）は、所属研究機関の担当者がe-Radを利用し、手続きを行うことになります（既に登録されている者であっても登録内容（「所属」、「職」等）に修正すべき事項がある場合には正しい情報に更新する必要があります。）
具体的な登録方法については、e-Radの「所属研究機関用マニュアル」を確認してください。
研究者は、事前に研究者情報が登録され、所属する研究機関からＩＤ・パスワードを付与されなければ応募することができません。
応募書類提出期限より後に研究計画調書の提出（送信）があっても受理しませんので、時間に十分余裕を持って提出（送信）できるよう、早めに研究者情報の登録（更新）を完了するようにしてください。
また、本手続については、応募に当たって研究機関内での取りまとめに支障を来さないよう、研究機関が行う重要手続きの一つとして位置付け、諸手続（研究機関内での周知等も含む。）を行うようにしてください。

（３）研究機関に所属している研究者についてのＩＤ・パスワードの確認

研究者がプログラムに応募するためには、e-RadのＩＤ・パスワードが必要ですので、研究機関は、応募を予定している研究者について、その有無を確認していただく必要があります。特に、応募を予定している研究者が他の研究機関からの異動者である場合は、異動前の研究機関から付与されたＩＤ・パスワードは使用できませんので、あらためて所属する研究機関が付与する必要があります。
研究機関は、応募を予定している研究者でＩＤ・パスワードを有していない者がいる場合には、次のような対応をしていただく必要があります。

① 研究者にＩＤ・パスワードを付与するためには、研究機関は、研究機関用の電子証明書及びＩＤ・パスワードを有していることが必要です。これらを取得されていない場合には、まず、e-Radポータルサイトより登録様式をダウンロードし、書面により登録申請を行ってください。
なお、登録申請から「研究機関用のＩＤ・パスワード」が到着するまで、おおよそ２週間程度かかります。
※１．e-Radの電子証明書及びＩＤ・パスワードの取得については、e-Radホームページ「システム利用に当たっての事前準備」（http://www.e-rad.go.jp/shozoku/system/index.html）でご確認ください。
※２．既にe-Radの電子証明書及びＩＤ・パスワードを取得している研究機関は、再度取得する必要はありません。

② 研究機関用のＩＤ・パスワードを取得後、研究代表者として応募を予定している研究者に対し、研究機関においてＩＤ・パスワードを付与してください。各研究者のＩＤ・パスワードは、e-Radに研究者情報を登録することにより発行されます。

※１．一度付与した研究者のＩＤ・パスワードは研究機関を異動しない限り使用可能です。（パスワードを変更した場合を除く。）

※２．既にe-RadのＩＤ・パスワードを付与した研究者に対しては、再度付与する必要はありません。

※３．e-Radの操作マニュアルは、必ず最新版を取得して利用してください。

（４）「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」（実施基準）に基づく体制整備等の実施状況についての報告

プログラムに応募する研究機関については、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、公的研究費の管理・監査体制を整備し、その実施状況を報告しなければなりません。

したがって、プログラムに応募する研究機関については、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備等の実施状況報告書」を平成22年５月20日（木）までにe-Radを使用して文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課競争的資金調整室に提出してください。提出がない場合には、当該研究機関に所属する研究者の応募が認められませんので、注意してください。

なお、平成21年４月以降に、例えば文部科学省（日本学術振興会及び独立行政法人科学技術振興機構を含む）が所管する他の公的研究費の応募の際に、e-Radを使用して既に同報告書を提出している場合には、改めて提出する必要はありません。また、平成23年度以降も継続して事業を実施する場合は、平成22年秋頃に、再度e-Radを利用して、報告書の提出が求められる予定のため、文部科学省からの周知等に十分に留意してください。

e-Radの使用に当たっては、研究機関用の電子証明書及びＩＤ・パスワードが必要になります。

また、e-Radを使用した報告書の提出方法や様式等については、下記ホームページに掲載されています。

注１）報告書の提出後、必要に応じて、文部科学省（資金配分機関を含む）による体制整備等の状況に関する現地調査にご協力いただくことがあります。

注２）また、報告内容に関して、平成19年５月31日付け科学技術・学術政策局長通知で示している「必須事項」への対応が不適切・不十分である等の問題が解消されないと判断される場合には、研究費を交付しないことがあります。

＜問い合わせ先＞

（ガイドラインの様式・提出等について）

文部科学省　科学技術・学術政策局　調査調整課　競争的資金調整室

e-mail: kenkyuhi@mext.go.jp

【ＵＲＬ】　http://www.mext.go.jp/a_menu/kansa/1284645.htm

（e-Radへの研究機関登録について）

文部科学省府省共通研究開発管理システム　ヘルプデスク

電話 0120-066-877（受付時間　9:30～17:30※土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く）

【ＵＲＬ】　http://www.e-rad.go.jp/shozoku/system/index.html

２．応募の際に行っていただくべきこと

（１）応募資格の確認

応募する研究者が、次の１）～３）の全ての要件を満たす者であるかどうか確認してください。

１）国籍・所属機関について、次のア）又はイ）のいずれかの要件を満たすこと。

ア）応募時に、我が国の研究機関に所属する研究者（外国籍を含む。）

イ）海外在住の研究者（外国籍を含む。）で、我が国の研究機関に所属する予定の者（助成金の交付申請時までに我が国の研究機関に所属すること）

2）年齢・性別について、次のア）又はイ）のいずれかの要件を満たすこと。

ア）平成22年４月１日時点で、満45歳以下の者
ただし、医学系の博士課程修了者、臨床研修終了者又は育児休暇取得者については、次のとおりとする。
① 医学、歯学又は獣医学を履修する４年制の博士課程修了者（次の②、③を除く）：満46歳以下
② 法律（医師法（平成12年の法改正前）、歯科医師法又は獣医師法）に定める臨床研修を修了した者で、医学（次の③を除く）、歯学又は獣医学を履修する４年制の博士課程修了者：満47歳以下
③ 医師法（平成12年の改正法）により義務付けられた２年以上の臨床研修を終了した者で、医学を履修する４年制の博士課程修了者：満48歳以下
④ 過去５年以内（平成17年４月２日以降）に育児休暇を取得した者：満47歳以下（上記①～③に該当する者の場合は、①～③の上限年齢をそれぞれ２歳引き上げる。）

イ）女性研究者（年齢は問わない。）

3）助成金の交付申請時までに、所属機関において、自己の責任で主体的に研究を進める立場にあること。

なお、１）～３）のほか、補助金の不正な使用等に伴い補助金の交付対象から除外されている者でないことについても必ず確認してください。

（２）応募者の確認

プログラムは高額な研究費を公的に支援するものであり、審査を効果的・効率的に実施する観点から、応募しようとする研究者がプログラムの目的・趣旨に鑑み、ふさわしい者であるかどうかについて、事前に所属研究機関が責任を持って確認してください。

３．申請書類（研究計画調書）の提出等

プログラムへの応募は、府省共通研究開発管理システム（e-Rad)による申請と、日本学術振興会への応募書類の提出が必要です（※両方が必要です)。それぞれの申請期間は、以下のとおりです。

府省共通研究開発管理システム（e-Rad)による申請締切
平成22年５月20日（木）17時
日本学術振興会への応募書類の提出期間
平成22年５月18日（火） ～ ５月20日（木）〔厳守〕
（ただし、10時から12時まで及び13時から17時まで。）

（１）府省共通研究開発管理システム（e-Rad）による申請

平成22年５月20日（木）17時までに、研究者が入力・作成した「研究計画調書」の内容を十分に確認の上、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）で承認処理をしてください。なお、承認処理の方法については、e-Radの「所属研究機関用マニュアル」を参照してください。

（２）日本学術振興会への応募書類の提出

① 必要な応募書類

１）公文書
２）研究計画調書（応募内容ファイル） 研究課題ごとに３０部
３）事務担当者連絡票

② 提出方法

研究者から提出のあった研究計画調書(応募内容ファイル）等について、別添「応募書類の提出方法について」に基づき、平成22年５月18日（火）～20日（木）（10時から12時まで及び13時から17時まで）の期間内に、日本学術振興会へ提出してください。応募書類を送付する場合は、封筒に「最先端・次世代研究開発支援プログラム応募書類在中」と朱書きの上、配達が証明できる方法（配達記録、小包、簡易書留、宅配便等）で余裕をもって発送し、上記提出期間内に必ず着くようにしてください。

【提 出 先】〒102-8472　東京都千代田区一番町８番地　一番町ＦＳビル３Ｆ
独立行政法人日本学術振興会研究事業部基金第二課
最先端・次世代研究開発支援プログラム事務局
電 話 ：03-3263-1738,0153

（３）その他

○　提出された研究計画調書等については、本公募要領にしたがっていない場合や不備がある場合も、差し替えや訂正は原則として認めません。

○　e-Radに入力した「応募情報」の不備、また、「応募情報」と紙媒体で提出する「応募内容ファイル」の内容との不一致がないよう、十分注意してください。

○　研究計画調書等に、審査における判断の根本に関わるような重大な誤りや虚偽の記載、記載漏れ等があった場合、審査対象とされないこともあります。また、虚偽の記載等があった場合は、採択後においても、採択が取り消されることがあります。この場合、虚偽の記載等を行った研究者について、一定期間プログラムへの参画を制限します。（他の競争的資金制度等においても、参画が制限される可能性があります。）

○　提出された研究計画調書等は返還いたしませんので、各研究機関において控えを保管するようにしてください。

（問い合わせ先）

１．　この公募に関する問い合わせは、研究機関を通じて下記あてに行ってください。

（１）公募の内容に関すること：

独立行政法人日本学術振興会研究事業部基金第二課
最先端・次世代研究開発支援プログラム事務局
電 話 ：０３－３２６３－１７３８，０１５３
ＦＡＸ：０３－３２３７－８３０７
E-mail ： jisedai-jsps@jsps.go.jp

（２）府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の利用に関すること：

・e-Radヘルプデスク
電話：０１２０－０６６－８７７（フリーダイヤル）
受付時間：９：３０～１７：３０

※土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く

２．　この公募要領に記載されている内容は、日本学術振興会のホームページでご覧いただけます。
また、応募書類の様式は、次のホームページからダウンロードすることができます。

日本学術振興会の最先端・次世代研究開発支援プログラムホームページ
http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/index.html

別表　　専門分野等一覧表

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
人文社会系	融合領域	科学教育・教育工学	科学教育	1601	(A)自然科学教育（数学、理科、物理・化学・生物・地学、情報）、(B)工学教育、(C)自然認識、(D)科学的社会認識、(E)科学リテラシー、(F)実験・観察、(G)科学教育カリキュラム、(H)環境教育、(J)産業・技術教育、(K)科学高等教育、(L)科学技術教育史、(M)科学と社会・文化、(N)科学技術政策、(P)教師教育・科学コミュニケータ養成
			教育工学	1602	(A)カリキュラム・教授法開発、(B)教授学習支援システム、(C)分散協調教育システム、(D)ヒューマン・インターフェイス、(E)教材情報システム、(F)メディアの活用、(G)遠隔教育、(H)ｅ－ラーニング、(J)コンピュータ・リテラシー、(K)メディア教育、(L)学習環境、(M)教師教育、(N)授業
		科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1701	(A)科学社会学、(B)生命倫理、(C)科学史、(D)技術史、(E)医学史、(F)産業考古学、(G)科学哲学・科学基礎論、(H)科学技術社会論(STS)
		文化財科学	文化財科学	1801	(A)年代測定、(B)材質分析、(C)製作技法、(D)保存科学、(E)遺跡探査、(F)動植物遺体・人骨、(G)文化財・文化遺産、(H)文化資源、(J)文化財政策
		地理学	地理学	1901	(A)地理学一般、(B)土地利用・景観、(C)環境システム、(D)地域計画、(E)地理教育、(F)地誌、(G)地形、(H)気候、(J)水文、(K)地図、(L)地理情報システム、(M)リモートセンシング
		地域研究	地域研究	2601	(A)ヨーロッパ、(B)ロシア・スラブ地域、(C)北アメリカ、(D)中・南アメリカ、(E)東アジア、(F)東南アジア、(G)南アジア、(H)西アジア・中央アジア、(J)アフリカ（含アフリカ史）、(K)オセアニア（含オセアニア史）、(L)世界、(M)地域間比較研究、(N)援助・地域協力
		ジェンダー	ジェンダー	2701	(A)性差・性別役割、(B)セクシュアリティ、(C)思想・運動・歴史、(D)法・政治、(E)経済・労働、(F)社会政策・社会福祉、(G)身体・表現・メディア、(H)科学技術・医療・生命、(J)教育・発達、(K)開発、(L)暴力・売買春、(M)比較文化、(N)女性学・男性学・クイア・スタディーズ
	人文学	哲学	哲学・倫理学	2801	(A)哲学原論・各論、(B)倫理学原論・各論、(C)西洋哲学、(D)西洋倫理学、(E)日本哲学、(F)日本倫理学、(G)比較哲学、(H)宗教哲学
			中国哲学	2802	(A)中国哲学・思想、(B)中国仏教、(C)道教、(D)儒教
			印度哲学・仏教学	2803	(A)印度哲学・思想、(B)仏教学・仏教史全般
			宗教学	2804	(A)宗教学全般、(B)宗教史、(C)宗教社会学、(D)宗教哲学、(E)比較宗教学
			思想史	2805	(A)西洋思想史、(B)東洋・日本思想史、(C)比較思想史、(D)宗教思想史、(E)社会思想史、(F)政治思想史、(G)科学思想史、(H)芸術思想史
			美学・美術史	2806	(A)美学、(B)美術史
		芸術学	芸術学・芸術史・芸術一般	2851	(A)音楽学、(B)美術論、(C)芸術諸学、(D)表象文化論、(E)大衆芸術、(F)美術館・博物館学、(G)芸術・文化政策
		文学	日本文学	2901	(A)日本文学一般、(B)古代文学、(C)中世文学、(D)近世文学、(E)近・現代文学、(F)漢文学、(G)書誌学・文献学、(H)文学批評・文学理論
			英米・英語圏文学	2902	(A)英文学、(B)米文学、(C)英語圏文学、(D)書誌学・文献学、(E)文学批評・文学理論、(F)比較文学
			ヨーロッパ文学（英文学を除く）	2903	(A)仏文学、(B)独文学、(C)ロシア東欧文学、(D)その他のヨーロッパ各国文学、(E)西洋古典学、(F)書誌学・文献学、(G)文学批評・文学理論、(H)比較文学
			各国文学・文学論	2904	(A)中国文学、(B)アフリカ文学、(C)東南アジア文学、(D)その他の各国文学、(E)書誌学・文献学、(F)文学批評・文学理論、(G)比較文学
		言語学	言語学	3001	(A)音声学、(B)音韻論、(C)形態論、(D)統語論、(E)意味論、(F)語用論、(G)談話研究、(H)文字論、(J)辞書論、(K)社会言語学、(L)心理言語学、(M)言語の生物的基盤、(N)歴史言語学、(P)仏語学、(Q)独語学、(R)中国語学、(S)その他の語学、(T)危機・少数言語
			日本語学	3002	(A)音声・音韻、(B)文法、(C)語彙・意味、(D)文字、(E)文章・文体、(F)方言、(G)言語生活、(H)日本語史、(J)日本語学史
			英語学	3003	(A)音声・音韻、(B)文法、(C)語彙・意味、(D)文体、(E)英語史、(F)英語学史、(G)英語の多様性
			日本語教育	3004	(A)日本語教育制度・言語政策、(B)教師論・教室研究、(C)教授法・カリキュラム、(D)第二言語習得理論、(E)教育工学・教材・教育メディア、(F)母語保持・バイリンガル教育、(G)異文化理解・異文化コミュニケーション、(H)日本事情、(J)日本語教育史、(K)教育評価・測定
			外国語教育	3005	(A)外国語教育制度、(B)外国語教育論・教育史、(C)教授法・カリキュラム論、(D)第二言語習得理論、(E)教育工学・教材・教育メディア一般、(F)e-ラーニング・コンピュータ支援学習(CALL)、(G)異文化コミュニケーション、(H)教育評価・測定、(J)外国語教師養成、(K)英語教育一般、(L)早期英語教育
		史学	史学一般	3101	(A)世界史、(B)文化交流史、(C)比較歴史学、(D)比較文明論、(E)史料学、(F)グローバル化
			日本史	3102	(A)古代史、(B)中世史、(C)近世史、(D)近現代史、(E)地方史、(F)文化史、(G)交流史、(H)日本史一般、(J)史料研究
			東洋史	3103	(A)中国古代・中近世史、(B)中国近現代史、(C)東アジア史、(D)東南アジア史、(E)南アジア史、(F)西アジア・イスラーム史、(G)中央ユーラシア史、(H)比較・交流史
			西洋史	3104	(A)古代史、(B)中世史、(C)西欧近現代史、(D)東欧近現代史、(E)南欧近現代史、(F)北欧近現代史、(G)南北アメリカ史、(H)史料研究、(J)比較・交流史
			考古学	3105	(A)考古学一般、(B)先史学、(C)歴史考古学、(D)日本考古学、(E)アジア考古学、(F)古代文明学、(G)物質文化学、(H)実験考古学、(J)埋蔵文化財研究、(K)情報考古学
		人文地理学	人文地理学	3201	(A)地理思想・方法論、(B)経済・交通地理学、(C)政治・社会地理学、(D)文化地理学、(E)都市地理学、(F)農村地理学、(G)歴史地理学、(H)地域環境・災害、(J)地理教育、(K)地域計画・地域政策、(L)地誌学、(M)地理情報システム、(N)絵図・地図
		文化人類学	文化人類学・民俗学	3301	(A)文化人類学、(B)民俗学、(C)民族学、(D)社会人類学、(E)比較民俗学、(F)物質文化、(G)先史・歴史、(H)芸能・芸術、(J)宗教・儀礼、(K)開発・援助、(L)ジェンダー、(M)医療、(N)人口・移住、(P)マイノリティー、(Q)生態・環境、(R)メディア

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（人文社会系）	社会科学	法学	基礎法学	3401	(A)法哲学・法理学、(B)ローマ法、(C)法制史、(D)法社会学、(E)比較法、(F)外国法、(G)法政策学、(H)法と経済
			公法学	3402	(A)憲法、(B)行政法、(C)租税法、(D)国法学、(E)立法学、(F)憲法訴訟、(G)比較憲法、(H)憲法史、(J)行政組織法、(K)行政手続法、(L)行政救済法、(M)国際税法、(N)裁判法
			国際法学	3403	(A)国際公法、(B)国際私法、(C)国際人権法、(D)国際組織法、(E)国際経済法、(F)国籍法、(G)国際民事手続法、(H)国際取引法
			社会法学	3404	(A)労働法、(B)経済法、(C)社会保障法、(D)教育法
			刑事法学	3405	(A)刑法、(B)刑事訴訟法、(C)犯罪学、(D)刑事政策、(E)少年法
			民事法学	3406	(A)民法、(B)商法、(C)民事訴訟法、(D)法人、(E)企業組織法、(F)金融法、(G)証券法、(H)保険法、(J)国際取引法、(K)倒産法、(L)紛争処理法制、(M)民事執行法
			新領域法学	3407	(A)環境法、(B)医事法、(C)情報法、(D)知的財産法、(E)ＥＵ法、(F)法とジェンダー、(G)法学教育・法曹論
		政治学	政治学	3501	(A)政治理論、(B)政治思想史、(C)政治史、(D)日本政治分析、(E)政治過程論、(F)選挙研究、(G)行政学、(H)比較政治、(J)公共政策
			国際関係論	3502	(A)国際理論、(B)外交史・国際関係史、(C)対外政策論、(D)安全保障論、(E)国際政治経済論、(F)国際協調論（含国際レジューム論、国際統合論）、(G)トランスナショナル・イシュ(含国際交流論)、(H)グローバル・イシュ
		経済学	理論経済学	3601	(A)ミクロ経済学、(B)ゲーム理論、(C)マクロ経済学、(D)経済理論、(E)経済制度・体制理論
			経済学説・経済思想	3602	(A)経済学説、(B)経済学史、(C)経済思想、(D)経済思想史、(E)社会思想、(F)社会思想史
			経済統計学	3603	(A)統計制度、(B)統計調査、(C)統計史、(D)統計学説史、(E)人口統計、(F)所得・資産分布、(G)国民経済計算、(H)計量経済学
			応用経済学	3604	(A)国際経済学、(B)労働経済学、(C)産業論、(D)産業組織論、(E)都市経済学、(F)環境経済学、(G)医療経済学、(H)地域経済学
			経済政策	3605	(A)経済政策、(B)経済事情、(C)日本経済、(D)社会保障、(E)経済体制、(F)経済発展、(G)政策シミュレーション
			財政学・金融論	3606	(A)財政学、(B)公共経済学、(C)金融論、(D)ファイナンス、(E)国際金融論
			経済史	3607	(A)経済史、(B)経営史、(C)産業史
		経営学	経営学	3701	(A)企業経営、(B)経営組織、(C)経営財務、(D)経営情報、(E)経営管理、(F)経営戦略、(G)国際経営、(H)人的資源管理、(J)技術経営、(K)企業の社会的責任、(L)ベンチャー企業
			商学	3702	(A)マーケティング、(B)消費者行動、(C)流通、(D)商業、(E)保険
			会計学	3703	(A)財務会計、(B)管理会計、(C)会計監査、(D)簿記、(E)国際会計、(F)税務会計、(G)公会計、(H)環境会計
		社会学	社会学	3801	(A)社会哲学・社会思想、(B)社会学史、(C)一般理論、(D)社会学方法論、(E)社会調査法、(F)数理社会学、(G)相互行為・社会関係、(H)社会集団・社会組織、(J)制度・構造・社会変動、(K)知識・科学・技術、(L)政治・権力・国家、(M)身体・自我･ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ、(N)家族・親族・人口、(P)地域社会・村落・都市、(Q)産業・労働・余暇、(R)階級・階層・社会移動、(S)文化・宗教・社会意識、(T)コミュニケーション・情報・メディア、(U)ジェンダー・世代、(V)教育・学校、(W)医療・福祉、(X)社会問題・社会運動、(Y)差別・排除、(Z)環境・公害、(a)国際社会・エスニシティ
			社会福祉学	3802	(A)社会福祉原論・社会福祉理論、(B)社会福祉思想・社会福祉史、(C)社会保障・社会福祉政策、(D)ソーシャルワーク・社会福祉援助技術、(E)貧困・社会的排除・差別、(F)児童・家族・女性福祉、(G)障害児・障害者福祉、(H)高齢者福祉、(J)地域福祉・コミュニティソーシャルワーク、(K)保健･医療・介護福祉、(L)学校・司法ソーシャルワーク、(M)福祉マネジメント・権利擁護・評価、(N)国際福祉・福祉ＮＧＯ、(P)ボランティア・福祉ＮＰＯ、(Q)社会福祉教育・実習
		心理学	社会心理学	3901	(A)自己過程、(B)社会的認知・感情、(C)態度・信念、(D)社会的相互作用・対人関係、(E)対人コミュニケーション、(F)集団・リーダーシップ、(G)集合現象、(H)産業・組織、(J)文化、(K)社会問題、(L)環境問題、(M)メディア・電子ネットワーク、(N)人事、(P)作業、(Q)消費者問題
			教育心理学	3902	(A)生涯発達、(B)親子関係、(C)発達障害、(D)パーソナリティ、(E)学習過程、(F)教授法、(G)学級集団・経営、(H)教育評価、(J)教育相談、(K)カウンセリング、(L)学生相談
			臨床心理学	3903	(A)心理的障害、(B)犯罪・非行、(C)心理アセスメント、(D)心理療法、(E)心理学的介入、(F)心理検査、(G)セルフコントロール、(H)心理面接過程、(J)事例研究、(K)セルフヘルプグループ、(L)セラピスト論、(M)地域援助、(N)健康開発、(P)心理リハビリテーション、(Q)健康心理学
			実験心理学	3904	(A)生理、(B)感覚・知覚、(C)注意、(D)学習・行動分析、(E)記憶、(F)思考、(G)言語、(H)動機づけ、(J)情動、(K)行動、(L)データ解析法、(M)意識、(N)原理・歴史
		教育学	教育学	4001	(A)教育哲学、(B)教育思想、(C)教育史、(D)カリキュラム論、(E)学習指導論、(F)学力論、(G)教育方法、(H)教育評価、(J)教育行財政、(K)学校経営、(L)学校教育、(M)幼児教育・保育、(N)生涯学習、(P)社会教育、(Q)家庭教育、(R)教育政策
			教育社会学	4002	(A)教育社会学、(B)教育経済学、(C)教育人類学、(D)教育政策、(E)比較教育、(F)人材開発・開発教育、(G)学校組織・学校文化、(H)教師・生徒文化、(J)青少年問題、(K)学力問題、(L)多文化教育、(M)ジェンダーと教育、(N)教育調査法、(P)教育情報システム
			教科教育学	4003	(A)各教科の教育（国語、算数・数学、理科、社会、地理・歴史、公民、生活、音楽、図画工作・美術工芸、家庭、技術、英語、情報）、(B)専門教科の教育（工業、商業、農業、水産、看護、福祉）、(C)カリキュラム構成・開発、(D)教材開発、(E)教科外教育（総合的学習、道徳、特別活動）、(F)生活指導・生徒指導、(G)進路指導
			特別支援教育	4004	(A)障害者教育、(B)特別ニーズ教育、(C)障害児保育、(D)特別ニーズ保育、(E)インクルージョン、(F)特別支援学校、(G)特別支援学級、(H)通級による指導、(J)特別な教育的ニーズ、(K)学習困難、(L)知的障害、(M)軽度発達障害、(N)身体障害、(P)精神障害、(Q)疾患・病気療養、(R)行動障害、(S)重度重複障害、(T)育児困難・虐待、(U)学校不適応、(V)教育相談・カウンセリング

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
理工系	融合領域	情報学	情報学基礎	1001	(A)計算理論、(B)オートマトン理論・形式言語理論、(C)プログラム理論、(D)計算量理論、(E)アルゴリズム理論、(F)暗号系、(G)情報数理、(H)数理論理学、(J)離散構造、(K)計算論的学習理論、(L)量子計算理論、(M)組み合わせ最適化
			ソフトウエア	1002	(A)アルゴリズム工学、(B)並列処理・分散処理、(C)プログラム言語論・プログラミングパラダイム、(D)プログラム処理系、(E)オペレーティングシステム、(F)ソフトウエア工学、(G)ソフトウエアエージェント、(H)仕様記述・仕様検証、(J)開発環境、(K)開発管理、(L)組み込みソフトウェア
			計算機システム・ネットワーク	1003	〔計算機システム〕 (A)計算機アーキテクチャ、(B)回路とシステム、(C)VLSI設計技術、(D)ハイパフォーマンスコンピューティング、(E)リコンフィギャラブルシステム、(F)ディペンダブルコンピューティング、(G)組み込みシステム 〔情報ネットワーク〕 (H)ネットワークアーキテクチャ、(J)ネットワークプロトコル、(K)ネットワークセキュリティ技術、(L)モバイルネットワーク技術、(M)トランスポート技術、(N)オーバレイネットワーク、(P)トラフィックエンジニアリング、(Q)ネットワーク運用技術、(R)ネットワーク計測、(S)ユビキタスコンピューティング、(T)大規模ネットワークシミュレーション、(U)相互接続性、(V)ネットワークノードオペレーティングシステム、(W)ネットワーク情報表現形式、(X)サービス構築基盤技術
			メディア情報学・データベース	1004	〔データベース・メディア・情報システム〕 (A)データベース（ＤＢＭＳ）、(B)コンテンツ、(C)マルチメディア、(D)情報システム、(E)Ｗｅｂサービス、(F)モバイルシステム、(G)情報検索、(H)グラフィクス、(J)可視化、(K)コーパス、(L)構造化文書 〔ユーザインターフェース〕 (M)ヒューマンインターフェイス、(N)ユーザモデル、(P)グループウエア、(Q)バーチャルリアリティ、(R)ウエアラブル機器、(S)ユニバーサルデザイン、(T)アクセシビリティ、(U)ユーザビリティ
			知能情報学	1005	(A)探索・論理・推論アルゴリズム、(B)学習と知識獲得、(C)知識ベース・知識システム、(D)知的システムアーキテクチャ、(E)知能情報処理、(F)自然言語処理、(G)知識発見とデータマイニング、(H)知的エージェント、(J)オントロジー、(K)ウェブインテリジェンス
			知覚情報処理・知能ロボティクス	1006	〔知覚情報処理〕 (A)パターン認識、(B)画像情報処理、(C)音声情報処理、(D)コンピュータビジョン、(E)情報センシング、(F)センサ融合・統合、(G)センシングデバイス・システム 〔知能ロボティクス〕 (H)知能ロボット、(J)行動環境認識、(K)モーションプランニング、(L)感覚行動システム、(M)自律システム、(N)ディジタルヒューマンモデル、(P)アニメーション、(Q)実世界情報処理、(R)物理エージェント、(S)インテリジェントルーム
			感性情報学・ソフトコンピューティング	1007	〔感性情報学〕 (A)感性デザイン学、(B)感性表現学、(C)感性認識学、(D)感性認知科学、(E)感性ロボティックス、(F)感性計測評価、(G)あいまいと感性、(H)感性情報処理、(J)感性データベース、(K)感性インタフェース、(L)感性生理学、(M)感性材料製品、(N)感性産業、(P)感性環境学、(Q)感性社会学、(R)感性哲学、(S)感性教育学、(T)感性脳科学、(U)感性経営学 〔ソフトコンピューティング〕 (V)ニューラルネットワーク、(W)遺伝アルゴリズム、(X)ファジィ理論、(Y)カオス、(Z)フラクタル、(a)複雑系、(b)確率的情報処理
			図書館情報学・人文社会情報学	1008	〔図書館情報学〕 (A)図書館学、(B)情報サービス、(C)図書館情報システム、(D)ディジタルアーカイブ、(E)情報組織化、(F)情報検索、(G)情報メディア、(H)計量情報学・科学計量学、(J)情報資源の構築・管理 〔人文社会情報学〕 (K)文学情報、(L)歴史情報、(M)情報社会学、(N)法律情報、(P)情報経済学、(Q)経営情報、(R)教育情報、(S)芸術情報、(T)医療情報、(U)科学技術情報、(V)知的財産情報、(W)地理情報
			認知科学	1009	(A)認知心理学、(B)進化・発達、(C)学習・思考・記憶、(D)推論・問題解決、(E)感覚・知覚・注意、(F)感情・情緒・行動、(G)比較認知心理学、(H)認知哲学、(J)脳認知科学、(K)認知言語学、(L)行動意思決定論、(M)認知工学、(N)認知考古学、(P)認知モデル、(Q)社会性
			統計科学	1010	(A)調査・実験計画、(B)多変量解析、(C)時系列解析、(D)分類・パターン認識、(E)統計的推測、(F)統計計算・コンピュータ支援統計、(G)統計的予測・制御、(H)モデル選択、(J)最適化理論、(K)医薬生物・ゲノム統計解析、(L)行動計量分析、(M)数理ファイナンス、(N)データマイニング、(P)空間・環境統計、(Q)統計教育、(R)統計的品質管理、(S)統計的学習理論、(T)社会調査の計画と解析、(U)データサイエンス
			生体生命情報学	1011	〔生物情報科学〕 (A)バイオインフォマティクス、(B)ゲノム情報処理、(C)プロテオーム情報処理、(D)コンピュータシミュレーション、(E)生体生命システム情報学 〔生命体システム情報学〕 (F)生体情報、(G)ニューロインフォマティクス、(H)脳型情報処理、(J)人工生命システム、(K)生命分子計算、(L)ＤＮＡコンピュータ
		環境学	環境動態解析	2001	(A)環境変動、(B)物質循環、(C)環境計測、(D)環境モデル、(E)環境情報、(F)地球温暖化、(G)地球規模水循環変動、(H)極域環境監視、(J)化学海洋、(K)生物海洋
			環境影響評価・環境政策	2002	〔環境影響評価〕 (A)陸圏・水圏・大気圏影響評価、(B)生態系影響評価、(C)影響評価手法、(D)健康影響評価、(E)次世代環境影響評価、(F)極域の人間活動 〔環境政策〕 (G)環境理念、(H)環境経済、(J)環境マネジメント、(K)環境活動、(L)環境と社会、(M)合意形成、(N)安全・安心
			放射線・化学物質影響科学	2003	〔放射線影響科学〕 (A)環境放射線（能）、(B)防護、(C)基礎過程、(D)線量測定・評価、(E)損傷、(F)応答、(G)修復、(H)感受性、(J)生物影響、(K)リスク評価 〔化学物質影響科学〕 (L)トキシコロジー、(M)人体有害物質、(N)微量化学物質汚染評価、(P)内分泌かく乱物質
			環境技術・環境材料	2004	〔環境技術〕 (A)環境保全技術、(B)環境修復技術、(C)省資源技術、(D)省エネルギー技術、(E)リサイクル技術、(F)環境負荷低減技術 〔環境材料〕 (G)循環再生材料設計、(H)循環再生加工、(J)循環材料生産システム、(K)人間生活環境、(L)グリーンケミストリー、(M)生態環境

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（理工系）	（融合領域）	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造科学	2101	〔化学系〕 (A)ナノ構造化学、(B)クラスター・微粒子、(C)ナノ・マイクロ反応場、(D)単分子操作、(E)階層構造・超構造、(F)表面・界面ナノ構造、(G)自己組織化 〔物理系〕 (H)ナノ構造物性、(J)メゾスコピック物理、(K)ナノプローブ、(L)量子情報、(M)ナノトライボロジー
			ナノ材料・ナノバイオサイエンス	2102	〔ナノ材料〕 (A)ナノ材料創製、(B)ナノ材料解析・評価、(C)ナノ表面・界面、(D)ナノ機能材料、(E)ナノ計測、(F)ナノ構造形成・制御、(G)分子素子、(H)ナノ粒子・ナノチューブ、(J)１分子科学 〔ナノバイオサイエンス〕 (K)ＤＮＡデバイス、(L)ナノ合成、(M)分子マニピュレーション、(N)バイオチップ、(P)１分子生理・生化学、(Q)１分子生体情報学、(R)１分子科学、(S)１分子イメージング・ナノ計測、(T)ゲノム工学
			マイクロ・ナノデバイス	2103	〔マイクロデバイス・マイクロマシン〕 (A)ＭＥＭＳ・ＮＥＭＳ、(B)マイクロファブリケーション、(C)マイクロ光デバイス、(D)マイクロ化学システム、(E)マイクロバイオシステム、(F)マイクロメカニクス、(G)マイクロセンサー 〔ナノデバイス〕 (H)ナノ構造作製、(J)自己組織化、(K)ナノ粒子、(L)量子ドット、(M)カーボンナノチューブ、(N)ナノ物性制御、(P)量子効果、(Q)ナノ電子デバイス、(R)ナノ光デバイス、(S)スピンデバイス、(T)分子デバイス、(U)単量子デバイス、(V)ナノマシン
		社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201	〔社会システム工学〕 (A)社会工学、(B)社会システム、(C)政策科学、(D)開発計画、(E)経営工学、(F)経営システム、(G)ＯＲ、(H)品質管理、(J)インダストリアルエンジニアリング、(K)モデリング、(L)ロジスティックス、(M)マーケティング、(N)ファイナンス、(P)プロジェクトマネジメント、(Q)環境管理 〔安全システム〕 (R)安全システム、(S)安全工学、(T)危機管理、(U)都市・社会防災、(V)火災・事故、(W)安全情報・環境整備、(X)社会の防災力（避難、パニック、情報伝達、ハザードマップ）、(Y)信頼性工学
			自然災害科学	2202	〔地震・火山防災〕 (A)地震動、(B)液状化、(C)活断層、(D)津波、(E)火山噴火、(F)火山噴出物・土石流、(G)地震災害、(H)火山災害、(J)被害予想・分析・対策、(K)建造物防災 〔自然災害〕 (L)気象災害、(M)水災害、(N)地盤災害、(P)土砂流、(Q)渇水、(R)雪氷災害、(S)自然災害予測・分析・対策、(T)ライフライン防災、(U)地域防災計画・政策、(V)復旧・復興工学、(W)災害リスク評価
	数物系科学	数学	代数学	4101	(A)数論、(B)群論、(C)数論幾何学、(D)群の表現論、(E)リー環論、(F)代数的組み合わせ論、(G)代数解析、(H)代数幾何、(J)環論、(K)代数一般
			幾何学	4102	(A)微分幾何、(B)複素多様体、(C)位相幾何、(D)複素解析幾何、(E)微分トポロジー
			数学一般（含確率論・統計数学）	4103	(A)数学基礎論、(B)確率論、(C)統計数学、(D)応用数学、(E)組合せ論、(F)情報数理、(G)離散数学、(H)数値数学、(J)数理モデル、(K)自己組織化
			基礎解析学	4104	(A)複素解析、(B)実解析、(C)関数方程式、(D)関数解析、(E)確率解析、(F)代数解析
			大域解析学	4105	(A)関数方程式の大域理論、(B)変分法、(C)非線形現象、(D)多様体上の解析、(E)力学系、(F)作用素環、(G)可積分系
		天文学	天文学	4201	(A)光学赤外線天文学、(B)電波天文学、(C)太陽物理学、(D)位置天文学、(E)理論天文学、(F)Ｘ線γ線天文学
		物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	4301	(A)素粒子（理論）、(B)原子核（理論）、(C)宇宙線（理論）、(D)宇宙物理（理論）、(E)相対論・重力（理論）、(F)素粒子（実験）、(G)原子核（実験）、(H)宇宙線（実験）、(J)宇宙物理（実験）、(K)相対論・重力（実験）、(L)加速器、(M)粒子測定技術
			物性Ⅰ	4302	(A)半導体、(B)メゾスコピック系・局在、(C)光物性、(D)表面・界面、(E)結晶成長、(F)誘電体、(G)格子欠陥、(H)Ｘ線・粒子線、(J)フォノン物性
			物性Ⅱ	4303	(A)磁性、(B)磁気共鳴、(C)強相関系、(D)高温超伝導、(E)金属、(F)超低温・量子凝縮系、(G)超伝導・密度波、(H)分子性固体・有機導体
			数理物理・物性基礎	4304	(A)統計物理学、(B)物性基礎論、(C)数理物理、(D)可積分系、(E)非平衡・非線形物理学、(F)応用数学、(G)力学、(H)流体物理、(J)不規則系、(K)計算物理学
			原子・分子・量子エレクトロニクス	4305	(A)原子・分子、(B)量子エレクトロニクス、(C)量子情報、(D)放射線、(E)ビーム物理
			生物物理・化学物理	4306	(A)高分子・液晶、(B)化学物理、(C)生物物理、(D)ソフトマターの物理
		地球惑星科学	固体地球惑星物理学	4401	(A)地震現象、(B)火山現象、(C)地殻変動・海底変動、(D)地磁気、(E)重力、(F)観測手法、(G)テクトニクス、(H)内部構造、(J)内部変動・物性、(K)固体惑星・衛星・小惑星、(L)惑星形成・進化、(M)固体惑星探査、(N)地震災害・予測
			気象・海洋物理・陸水学	4402	(A)気象、(B)海洋物理、(C)陸域水循環・物質循環、(D)水収支、(E)地球環境システム、(F)地球流体力学、(G)気候、(H)惑星大気、(J)大気海洋相互作用
			超高層物理学	4403	(A)太陽地球システム・宇宙天気、(B)太陽風・惑星間空間、(C)地球惑星磁気圏、(D)地球惑星電離圏、(E)地球惑星上層大気、(F)宇宙プラズマ、(G)地磁気変動、(H)プラズマ波動
			地質学	4404	(A)地層、(B)地殻、(C)環境地質、(D)テクトニクス、(E)地質時代、(F)地球史、(G)応用地質、(H)惑星地質学、(J)第四紀学、(K)地質災害・地質ハザード
			層位・古生物学	4405	(A)層序、(B)古環境、(C)化石、(D)系統・進化・多様性、(E)古生態、(F)古生物地理、(G)機能・形態、(H)古海洋
			岩石・鉱物・鉱床学	4406	(A)地球惑星物質、(B)地球惑星進化、(C)地殻・マントル・核、(D)マグマ・火成岩、(E)変成岩、(F)天然・人工結晶、(G)元素分別濃集過程、(H)鉱物資源、(J)鉱床形成、(K)鉱物物理、(L)生体・環境鉱物
			地球宇宙化学	4407	(A)元素分布、(B)同位体・放射年代、(C)物質循環、(D)地殻・マントル化学、(E)地球外物質化学、(F)大気圏・水圏化学、(G)生物圏地球化学
		プラズマ科学	プラズマ科学	4501	(A)プラズマ基礎、(B)プラズマ応用、(C)プラズマ計測、(D)プラズマ物理、(E)放電、(F)反応性プラズマ、(G)宇宙・天体プラズマ、(H)核燃焼プラズマ、(J)プラズマ化学、(K)プラズマ制御・レーザー

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（理工系）	化学	基礎化学	物理化学	4601	(A)分子構造、(B)結晶構造、(C)電子状態、(D)分子動力学、(E)化学反応、(F)反応動力学、(G)クラスター、(H)溶液・コロイド、(J)分子分光、(K)励起分子素過程、(L)量子ビーム、(M)電子・エネルギー移動、(N)表面・界面、(P)理論化学、(Q)電気化学、(R)スピン化学、(S)生物物理化学
			有機化学	4602	(A)構造有機化学、(B)反応有機化学、(C)合成有機化学、(D)有機元素化学、(E)有機光化学、(F)物理有機化学、(G)理論有機化学
			無機化学	4603	(A)金属錯体化学、(B)有機金属化学、(C)無機固体化学、(D)溶液化学、(E)生物無機化学、(F)核・放射化学、(G)クラスター、(H)超分子錯体、(J)多核錯体、(K)配位高分子
		複合化学	分析化学	4701	(A)試料処理、(B)化学分析、(C)生物学的分析、(D)核利用分析、(E)分離分析、(F)化学センサー、(G)チップ分析、(H)クロマトグラフィー、(J)機器分析、(K)表面分析、(L)状態分析、(M)環境分析、(N)生体分析、(P)バイオセンサー
			合成化学	4702	(A)選択的合成・反応、(B)錯体・有機金属触媒、(C)ファインケミカルズ、(D)不斉合成・反応、(E)触媒設計・反応、(F)環境調和型反応、(G)反応場、(H)自動合成、(J)生物的合成手法、(K)コンビナトリアル手法
			高分子化学	4703	(A)高分子合成、(B)高分子反応・分解、(C)不斉重合、(D)重合触媒、(E)非共有結合高分子、(F)自己組織化高分子、(G)高分子構造、(H)高分子物性、(J)機能性高分子、(K)生体関連高分子、(L)高分子薄膜・表面、(M)高分子錯体、(N)環境関連高分子
			機能物質化学	4704	(A)光物性、(B)電気・磁気的機能、(C)分子素子、(D)センサー、(E)分子認識、(F)超分子、(G)液晶・結晶、(H)膜・集合体、(J)表面・界面、(K)コロイド・超微粒子、(L)電気化学、(M)機能触媒
			環境関連化学	4705	(A)グリーンケミストリー、(B)リサイクル化学、(C)低環境負荷物質、(D)生分解性物質、(E)高機能触媒、(F)微量環境物質評価、(G)反応媒体、(H)安全化学、(J)ミクロ化学手法、(K)高効率反応設計
			生体関連化学	4706	(A)生体機能関連化学、(B)生体関連高分子化学、(C)生物無機化学、(D)天然物有機化学、(E)生物有機化学、(F)バイオテクノロジー、(G)核酸・蛋白質・糖化学、(H)酵素化学、(J)生体認識・機能化学、(K)ポストゲノム創薬、(L)生体機能材料
		材料化学	機能材料・デバイス	4801	(A)液晶材料・素子、(B)有機ＥＬ素子、(C)有機半導体デバイス、(D)光学材料・素子、(E)有機電子材料・素子、(F)導電機能素子、(G)分子素子、(H)電気・磁気デバイス、(J)電池、(K)コンデンサー、(L)生体機能応用デバイス
			有機工業材料	4802	(A)機能性有機材料、(B)ハイブリッド材料、(C)界面活性剤、(D)染料・顔料、(E)色素・色材、(F)印刷・インキ、(G)レジスト、(H)接着剤、(J)選択的反応、(K)新規官能基
			無機工業材料	4803	(A)結晶・多結晶材料、(B)ガラス、(C)セラミックス、(D)微粉体、(E)層状・層間化合物、(F)イオン交換体・伝導体、(G)無機合成、(H)光触媒、(J)電気化学、(K)ナノ粒子、(L)多孔体、(M)ハイブリッド材料
			高分子・繊維材料	4804	(A)高分子材料物性、(B)高分子材料合成、(C)繊維材料、(D)ゴム材料、(E)ゲル、(F)高分子機能材料、(G)天然・生体高分子材料、(H)ポリマーアロイ、(J)高分子系複合材料、(K)高分子・繊維加工、(L)高分子計算科学
	工学	応用物理学・工学基礎	応用物性・結晶工学	4901	(A)金属、(B)半導体、(C)磁性体、(D)超伝導体、(E)非晶質、(F)誘電体、(G)セラミックス、(H)結晶成長、(J)エピタキシャル成長、(K)結晶評価、(L)ヘテロ構造、(M)光物性、(N)微粒子、(P)有機分子、(Q)液晶、(R)新機能材料、(S)スピントロニクス、(T)有機・分子エレクトロニクス、(U)バイオエレクトロニクス
			薄膜・表面界面物性	4902	(A)薄膜、(B)表面、(C)界面、(D)プラズマプロセス、(E)真空、(F)ビーム応用、(G)走査プローブ顕微鏡、(H)電子顕微鏡
			応用光学・量子光工学	4903	(A)光、(B)光学素子・装置・材料、(C)画像・光情報処理、(D)視覚工学、(E)量子エレクトロニクス、(F)レーザー、(G)非線形光学、(H)量子光学、(J)フォトニック結晶、(K)光エレクトロニクス、(L)微小光学、(M)光計測、(N)光記録、(P)光制御、(Q)光プロセシング
			応用物理学一般	4904	(A)力、(B)熱、(C)音、(D)振動、(E)電磁気、(F)物理計測・制御、(G)標準、(H)センサー、(J)マイクロマシン、(K)エネルギー変換、(L)プラズマ、(M)放射線、(N)加速器
			工学基礎	4905	(A)数理工学（数理的解析・計画・設計・最適化）、(B)物理数学、(C)計算力学、(D)シミュレーション工学
		機械工学	機械材料・材料力学	5001	(A)材料設計・プロセス・物性・評価、(B)連続体力学、(C)構造力学、(D)損傷力学、(E)破壊、(F)疲労、(G)環境強度、(H)信頼性設計、(J)生体力学、(K)マイクロ材料力学
			生産工学・加工学	5002	(A)生産モデリング、(B)生産システム、(C)生産管理、(D)工程設計、(E)工作機械、(F)成形加工、(G)切削・研削加工、(H)特殊加工、(J)超精密加工、(K)ナノ・マイクロ加工、(L)精密位置決め・加工計測
			設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5003	(A)設計工学、(B)形状モデリング、(C)CAE･CAD、(D)創造工学、(E)機構学、(F)機械要素、(G)機能要素、(H)故障診断、(J)安全・安心設計、(K)ライフサイクル設計、(L)トライボロジー
			流体工学	5004	(A)数値流体力学、(B)流体計測、(C)圧縮・非圧縮流、(D)乱流、(E)混相流、(F)反応流、(G)非ニュートン流、(H)マイクロ流、(J)分子流体力学、(K)バイオ流体力学、(L)環境流体力学、(M)音響、(N)流体機械、(P)油空圧機器
			熱工学	5005	(A)熱物性、(B)対流、(C)伝導、(D)輻射、(E)物質輸送、(F)燃焼、(G)マイクロ・ナノスケール伝熱、(H)熱機関、(J)冷凍・空調、(K)伝熱機器、(L)エネルギー利用、(M)生体熱工学
			機械力学・制御	5006	(A)運動力学、(B)動的設計、(C)振動学、(D)振動解析・試験、(E)制御機器、(F)運動制御、(G)振動制御、(H)機械計測、(J)耐震・免震設計、(K)交通機械制御、(L)音響情報・制御、(M)音響エネルギー
			知能機械学・機械システム	5007	(A)ロボティクス、(B)メカトロニクス、(C)マイクロ・ナノメカトロニクス、(D)バイオメカニクス、(E)ソフトメカニクス、(F)情報機器・知能機械システム、(G)精密機械システム、(H)人間機械システム、(J)情報システム
		電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器	5101	(A)電気エネルギー工学（発生・変換・貯蔵、省エネルギーなど）、(B)電力系統工学、(C)電気機器、(D)パワーエレクトロニクス、(E)電気有効利用、(F)電気・電磁環境、(G)照明
			電子・電気材料工学	5102	(A)電気・電子材料（半導体、誘電体、磁性体、超誘電体、有機物、絶縁体、超伝導体など）、(B)薄膜・量子構造、(C)厚膜、(D)作成・評価技術
			電子デバイス・電子機器	5103	(A)電子デバイス・集積回路、(B)回路設計・ＣＡＤ、(C)光デバイス・光回路、(D)量子デバイス・スピンデバイス、(E)マイクロ波・ミリ波、(F)波動利用工学、(G)バイオデバイス、(H)記憶・記録、(J)表示、(K)センシング、(L)微細プロセス技術、(M)インターコネクト・パッケージのシステム化・応用
			通信・ネットワーク工学	5104	(A)電子回路網、(B)非線形理論・回路、(C)情報理論、(D)信号処理、(E)通信方式（無線、有線、衛星、光、移動）、(F)変復調、(G)符号化、(H)プロトコル、(J)アンテナ、(K)中継・交換、(L)ネットワーク・ＬＡＮ、(M)マルチメディア、(N)暗号・セキュリティ
			システム工学	5105	(A)システム情報（知識）処理、(B)社会システム工学、(C)経営システム工学、(D)環境システム工学、(E)生産システム工学、(F)バイオシステム工学
			計測工学	5106	(A)計測理論、(B)センシングデバイス、(C)計測機器、(D)計測システム、(E)信号処理、(F)センシング情報処理
			制御工学	5107	(A)制御理論、(B)システム理論、(C)知識型制御、(D)制御機器、(E)制御システム、(F)複雑系

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（理工系）	（工学）	土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント	5201	(A)コンクリート、(B)鋼材、(C)瀝青材料、(D)複合材料・新材料、(E)木材、(F)施工、(G)維持・管理、(H)建設事業計画・設計、(J)建設マネジメント
			構造工学・地震工学・維持管理工学	5202	(A)応用力学、(B)構造工学、(C)鋼構造、(D)コンクリート構造、(E)複合構造、(F)風工学、(G)地震工学、(H)耐震構造、(J)地震防災、(K)維持管理工学
			地盤工学	5203	(A)土質力学、(B)基礎工学、(C)岩盤工学、(D)土木地質、(E)地盤の挙動、(F)地盤と構造物、(G)地盤防災、(H)地盤環境工学
			水工学	5204	(A)水理学、(B)環境水理学、(C)水文学、(D)河川工学、(E)水資源工学、(F)海岸工学、(G)港湾工学、(H)海洋工学
			土木計画学・交通工学	5205	(A)土木計画、(B)地域都市計画、(C)国土計画、(D)防災計画・環境計画、(E)交通計画、(F)交通工学、(G)鉄道工学、(H)測量・リモートセンシング、(J)景観・デザイン、(K)土木史
			土木環境システム	5206	(A)環境計画・管理、(B)環境システム、(C)環境保全、(D)用排水システム、(E)廃棄物、(F)土壌・水環境、(G)大気循環・騒音振動、(H)環境生態
		建築学	建築構造・材料	5301	(A)荷重論、(B)構造解析、(C)構造設計、(D)コンクリート構造、(E)鋼構造、(F)基礎構造、(G)構造材料、(H)建築工法、(J)保全技術、(K)地震防災、(L)構造制御、(M)耐震設計、(N)耐風設計
			建築環境・設備	5302	(A)音・振動環境、(B)光環境、(C)熱環境、(D)空気環境、(E)環境設備計画、(F)環境心理生理、(G)建築設備、(H)火災工学、(J)地球・都市環境、(K)環境設計
			都市計画・建築計画	5303	(A)計画論、(B)設計論、(C)住宅論、(D)各種建物・地域施設、(E)都市・地域計画、(F)行政・制度、(G)建築・都市経済、(H)生産管理、(J)防災計画、(K)景観・環境計画
			建築史・意匠	5304	(A)建築史、(B)都市史、(C)建築論、(D)意匠、(E)様式、(F)景観・環境、(G)保存・再生
		材料工学	金属物性	5401	(A)電子・磁気物性、(B)半導体物性、(C)熱物性、(D)光物性、(E)力学物性、(F)超伝導、(G)薄膜物性、(H)ナノ物性、(J)計算材料物性、(K)表面・界面・粒界物性、(L)微粒子・クラスター、(M)準結晶、(N)照射損傷、(P)原子・電子構造、(Q)格子欠陥、(R)拡散・相変態・状態図
			無機材料・物性	5402	(A)結晶構造・組織制御、(B)力学・電子・電磁・光・熱物性、(C)表面・界面物性、(D)高温特性、(E)粒界特性、(F)機能性セラミックス、(G)機能性ガラス、(H)構造用セラミックス、(J)カーボン材料、(K)誘電体、(L)無機高分子
			複合材料・物性	5403	(A)有機・無機繊維、(B)マトリックス材、(C)複合効果、(D)分散強化、(E)長繊維強化、(F)ＦＲＭ、(G)ＦＲＰ、(H)ＦＲＣ、(J)傾斜機能、(K)複合粒子、(L)複合破壊、(M)複合変形応力、(N)界面破壊、(P)反応焼結、(Q)複合高分子
			構造・機能材料	5404	(A)強度・靭性・破壊・疲労・クリープ・応力腐食割れ・超塑性・磨耗、(B)ナノ構造、(C)磁性材料、(D)電子・情報材料、(E)水素吸蔵材料、(F)燃料電池材料、(G)熱・エネルギー材料、(H)センサー材料・光機能材料、(J)極低温材料、(K)耐震・耐環境材料、(L)バイオマテリアル、(M)高温材料、(N)アモルファス材料、(P)インテリジェント・安全・安心材料、(Q)新機能材料、(R)エコマテリアル、(S)機能性高分子材料
			材料加工・処理	5405	(A)表面・界面制御、(B)腐食防食、(C)塑性加工、(D)粉末冶金、(E)熱処理、(F)接合・溶接、(G)結晶・組織制御、(H)ナノプロセス、(J)微細加工、(K)プラズマ処理・レーザー加工、(L)溶射・コーティング・粒子積層プロセス、(M)めっきプロセス、(N)非破壊検査、(P)薄膜プロセス、(Q)非平衡プロセス、(R)メカニカルアロイング、(S)精密造形プロセス、(T)電極触媒、(U)補修・延命処理、(V)電気接続・配線
			金属生産工学	5406	(A)反応・分離、(B)素材精製、(C)融体・凝固、(D)鋳造、(E)結晶育成、(F)組織制御、(G)高純度化、(H)各種製造プロセス、(J)省エネプロセス、(K)極限環境・環境調和型プロセス、(L)エコマテリアル化、(M)資源分離・資源保障、(N)廃棄物処理、(P)材料循環プロセス、(Q)リサイクル、(R)安全材料工学
		プロセス工学	化工物性・移動操作・単位操作	5501	(A)平衡・輸送物性、(B)流動・伝熱・物質移動操作、(C)蒸留、(D)抽出、(E)吸収、(F)吸着、(G)イオン交換、(H)膜分離、(J)異相分離、(K)超高度分離、(L)撹拌・混合操作、(M)粉粒体操作、(N)晶析操作、(P)薄膜・微粒子形成操作、(Q)高分子成形加工操作
			反応工学・プロセスシステム	5502	(A)気・液・固・超臨界流体反応操作、(B)新規反応場、(C)反応速度、(D)反応機構、(E)反応装置、(F)材料合成プロセス、(G)重合プロセス、(H)計測、(J)センサー、(K)プロセス制御、(L)プロセスシステム設計、(M)プロセス情報処理、(N)プロセス運転・設備管理
			触媒・資源化学プロセス	5503	(A)触媒反応、(B)触媒調製化学、(C)触媒機能解析、(D)エネルギー変換プロセス、(E)化石燃料有効利用技術、(F)資源・エネルギー有効利用技術、(G)省資源・省エネルギー技術、(H)燃焼技術
			生物機能・バイオプロセス	5504	(A)生体触媒工学、(B)生物機能工学、(C)食品工学、(D)医用化学工学、(E)応用生物電気化学、(F)バイオ生産プロセス、(G)バイオリアクター、(H)バイオセンサー、(J)バイオセパレーション、(K)バイオインフォマティクス、(L)ゲノム工学
		総合工学	航空宇宙工学	5601	(A)航空宇宙流体力学、(B)構造・材料、(C)振動・強度、(D)誘導・航法・制御、(E)推進・エンジン、(F)飛行力学、(G)航空宇宙システム、(H)設計・計装、(J)特殊航空機、(K)宇宙利用・探査、(L)航空宇宙環境
			船舶海洋工学	5602	(A)推進・運動性能、(B)材料・構造力学、(C)海事流体力学、(D)計画・設計・生産システム、(E)建造・艤装、(F)海上輸送システム、(G)舶用機関・燃料、(H)海洋環境、(J)海洋資源・エネルギー、(K)海洋探査・機器、(L)海中・海底工学、(M)極地工学
			地球・資源システム工学	5603	(A)応用地質、(B)地殻工学、(C)リモートセンシング、(D)地球計測、(E)地球システム、(F)資源探査、(G)資源開発、(H)資源評価、(J)資源処理、(K)廃棄物地下保存・処分、(L)地層汚染修復、(M)深地層開発、(N)素材資源、(P)再生可能資源・エネルギー、(Q)資源経済
			リサイクル工学	5604	(A)廃棄物発生抑制、(B)再使用、(C)再生利用、(D)再資源化、(E)有価物回収、(F)固固分離、(G)素材の高純度化、(H)適正処分の技術とシステム、(J)リサイクルとＬＣＡ、(K)環境配慮設計、(L)グリーンプロダクション、(M)ゼロエミッション
			核融合学	5605	(A)炉心プラズマ、(B)周辺プラズマ、(C)プラズマ計測、(D)プラズマ・壁相互作用、(E)理論シミュレーション、(F)低放射化材料、(G)燃料・ブランケット、(H)電磁・マグネット、(J)慣性核融合、(K)核融合システム工学、(L)安全・生物影響
			原子力学	5606	(A)放射線工学・ビーム科学、(B)炉物理・核データ、(C)原子力計測・放射線物理、(D)熱流動・構造、(E)システム設計・安全工学、(F)原子力材料・核燃料、(G)同位体・放射線化学、(H)燃料サイクル、(J)バックエンド、(K)新型原子炉、(L)保健物理・環境安全、(M)原子力社会環境
			エネルギー学	5607	(A)エネルギー生成・変換、(B)エネルギー輸送・貯蔵、(C)エネルギー節約・効率利用、(D)エネルギーシステム、(E)環境調和、(F)自然エネルギーの利用

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
生物系	融合領域	脳神経科学	神経科学一般	1101	(A)分子・細胞神経科学、(B)発生・発達・再生神経科学、(C)神経内分泌学、(D)臨床神経科学、(E)神経情報処理、(F)認知神経科学、(G)行動神経科学、(H)非侵襲的脳活動計測、(J)計算論的神経科学、(K)神経心理学、(L)言語神経科学、(M)病態脳科学
			神経解剖学・神経病理学	1102	〔神経解剖学〕 (A)神経伝導学、(B)神経回路網、(C)神経組織学、(D)分子神経生物学、(E)神経微細形態学、(F)神経組織細胞化学、(G)神経発生・分化・異常、(H)神経再生・神経可塑性、(J)神経実験形態学、(K)脳画像解剖学、(L)神経細胞学 〔神経病理学〕 (M)神経細胞病理学、(N)分子神経病理学、(P)神経変性疾患、(Q)脳発達障害、(R)老化性痴呆疾患、(S)脳循環障害、(T)脳代謝性疾患、(U)中毒性疾患、(V)脳腫瘍、(W)脊髄疾患、(X)筋・末梢神経疾患
			神経化学・神経薬理学	1103	(A)分子・細胞・神経生物学、(B)発生・分化・老化、(C)神経伝達物質・受容体、(D)細胞内情報伝達、(E)グリア細胞、(F)精神・神経疾患の病態と治療、(G)幹細胞生物学・再生・修復、(H)神経可塑性、(J)中枢・末梢神経薬理学、(K)神経創薬、(L)神経ゲノム科学
			神経・筋肉生理学	1104	〔神経生理学〕 (A)ニューロン・シナプス・神経回路、(B)グリア、(C)視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚、(D)体性感覚・内臓感覚・痛覚、(E)姿勢・運動制御、(F)自律神経調節、(G)システム神経生理・ニューロインフォマティクス、(H)認知・言語・記憶・情動、(J)脳機能イメージング、(K)神経発生・神経発達・神経再生・神経再建、(L)神経系病態生理 〔筋肉生理学〕 (M)筋収縮機構・エナジェティクス、(N)興奮収縮連関、(P)分子生理・筋分子モーター、(Q)受容体・細胞内シグナル伝達、(R)神経性筋制御：骨格筋・心筋・平滑筋、(S)心臓興奮・伝導異常、(T)心筋機能不全・再生、(U)心筋・平滑筋リモデリング、(V)平滑筋生理、(W)骨格筋生理・病態学
			融合基盤脳科学	1105	(A)ゲノム脳科学、(B)エピジェネティクス、(C)脳分子プロファイリング、(D)ナノ脳科学、(E)ケミカルバイオロジー、(F)薬物脳科学、(G)脳機能プローブ、(H)脳イメージング、(J)光脳科学、(K)ニューロングリア相互作用、(L)脳機能モデル動物、(M)脳機能行動解析、(N)脳とリズム、(P)睡眠
			融合脳計測科学	1106	(A)脳形態計測、(B)脳機能計測、(C)リアルタイム脳血流計測、(D)脳活動記録（レコーディング）、(E)脳情報読み出し（デコーディング）、(F)感覚情報、(G)運動情報、(H)認知情報、(J)高次脳機能計測、(K)脳情報処理、(L)脳機能操作、(M)ブレインマシンインターフェイス
			融合社会脳科学	1107	(A)コミュニケーション、(B)対人関係、(C)社会行動、(D)発達・教育、(E)感性・情動・感情、(F)価値・報酬・懲罰、(G)動機づけ、(H)ニューロエコノミクス・ニューロマーケティング、(J)政治脳科学
		実験動物学	実験動物学	1201	(A)環境・施設、(B)感染症、(C)凍結保存、(D)安全性、(E)疾患モデル、(F)育種遺伝、(G)発生工学、(H)実験動物福祉、(J)動物実験技術、(K)リサーチバイオリソース
		人間医工学	医用生体工学・生体材料学	1301	〔医用生体工学〕 (A)医用・生体画像、(B)生体システム・フィジオーム、(C)生体情報・計測、(D)バイオメカニクス、(E)人工臓器工学・再生医工学、(F)生体物性、(G)生体制御・治療、(H)医用光・熱工学、(J)医用マイクロ・ナノマシン、(K)ナノバイオロジー・ナノメディスン、(L)バイオイメージング 〔生体材料学〕 (M)バイオマテリアル、(N)生体機能材料、(P)細胞・組織工学、(Q)生体適合材料、(R)インテリジェント材料、(S)バイオコンジュゲート材料、(T)再生医工学材料、(U)薬物伝達システム、(V)ナノバイオ材料
			医用システム	1302	(A)超音波医科学、(B)画像診断システム、(C)検査・診断システム、(D)低侵襲治療システム、(E)遠隔診断治療システム、(F)臓器保存・治療システム、(G)医療情報システム、(H)コンピュータ外科学、(J)医用ロボット
			リハビリテーション科学・福祉工学	1303	〔リハビリテーション科学〕 (A)リハビリテーション医学、(B)障害学、(C)理学療法学、(D)作業療法学、(E)言語聴覚療法学、(F)医療社会福祉学、(G)人工感覚器、(H)老年学、(J)臨床心理療法学 〔福祉工学〕 (K)健康・福祉工学、(L)生活支援技術、(M)介護予防・支援技術、(N)社会参加、(P)バリアフリー、(Q)ユニバーサルデザイン、(R)福祉・介護用ロボット、(S)生体機能代行、(T)福祉用具・支援機器、(U)ヒューマンインターフェース
		健康・スポーツ科学	身体教育学	1401	〔身体の仕組みと発達メカニズム〕 (A)教育生理学、(B)身体システム学、(C)生体情報解析、(D)脳高次機能学、(E)身体発育発達学、(F)感覚と運動発達学 〔心身の教育と文化〕 (G)感性の教育、(H)身体環境論、(J)運動指導論、(K)体育科教育、(L)フィットネス、(M)身体運動文化論、(N)身体性哲学、(P)死生観の教育、(Q)体育心理学、(R)情動の科学、(S)野外教育、(T)舞踊教育、(U)女子体育、(V)成年・老年期の体育、(W)武道論、(X)運動適応生命学
			スポーツ科学	1402	〔スポーツ科学〕 (A)スポーツ哲学、(B)スポーツ史、(C)スポーツ心理学、(D)スポーツ経営学、(E)スポーツ教育学、(F)トレーニング科学、(G)スポーツバイオメカニクス、(H)コーチング、(J)スポーツ・タレント、(K)障害者スポーツ、(L)スポーツ社会学、(M)スポーツ環境学、(N)スポーツ文化人類学 〔スポーツ医科学〕 (P)スポーツ生理学、(Q)スポーツ生化学、(R)スポーツ栄養学、(S)エネルギー代謝、(T)運動とトレーニング、(U)スポーツ障害、(V)ドーピング
			応用健康科学	1403	〔健康教育・健康推進活動〕 (A)健康教育、(B)ヘルスプロモーション、(C)安全推進・安全教育、(D)保健科教育、(E)ストレスマネジメント、(F)喫煙・薬物乱用防止教育、(G)学校保健、(H)性・エイズ教育、(J)保健健康管理、(K)保健健康情報、(L)栄養指導、(M)心身の健康、(N)レジャー・レクリエーション 〔応用健康医学〕 (P)生活習慣病、(Q)運動処方と運動療法、(R)加齢・老化、(S)スポーツ医学、(T)スポーツ免疫学
		生活科学	生活科学一般	1501	〔家政一般〕 (A)家庭経済・家庭経営、(B)家族関係、(C)ライフスタイル、(D)消費購買活動・生活情報、(E)生活文化、(F)高齢者生活、(G)介護、(H)保育・子育て、(J)家政・家庭科教育 〔衣・住生活〕 (K)衣生活、(L)衣環境、(M)住生活、(N)住環境、(P)生活素材、(Q)生活造形・生活財
			食生活学	1502	〔食品と調理〕 (A)調理と加工、(B)食品と貯蔵、(C)食嗜好と評価、(D)食素材、(E)調理と機能性成分、(F)フードサービス、(G)食文化、(H)テクスチャー、(J)食品と咀嚼性 〔食生活と健康〕 (K)健康と食生活、(L)食と栄養、(M)食教育、(N)食習慣、(P)食行動、(Q)食情報、(R)特殊栄養食品、(S)食と環境、(T)食事計画、(U)家族と食生活、(V)食生活の評価、(W)フードマネージメント

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（生物系）	（融合領域）	腫瘍学	発がん	1951	(A)ゲノム不安定性、(B)エピジェネティクス、(C)がんゲノム解析、(D)化学発がん、(E)放射線発がん、(F)ウイルス発がん、(G)細菌感染と発がん、(H)炎症とがん、(J)実験動物モデル、(K)遺伝子改変動物
			腫瘍生物学	1952	(A)がん遺伝子、(B)がん制御遺伝子、(C)シグナル伝達と遺伝子発現、(D)ＤＮＡ複製、(E)細胞周期、(F)がんと遺伝、(G)アポトーシス、(H)細胞極性、(J)細胞接着・運動、(K)浸潤、(L)転移、(M)がん細胞の特性、(N)がん微小環境、(P)血管新生、(Q)リンパ管新生、(R)幹細胞、(S)細胞老化、(T)細胞不死化
			腫瘍免疫学	1953	(A)液性免疫、(B)細胞免疫、(C)抗体療法、(D)免疫療法、(E)ワクチン療法、(F)細胞療法、(G)サイトカイン、(H)免疫抑制、(J)免疫活性化
			腫瘍診断学	1954	(A)ゲノム解析、(B)プロテオミクス解析、(C)発現解析、(D)がんの個性診断、(E)オーダーメイド治療、(F)薬効評価と予測、(G)バイオマーカー、(H)腫瘍マーカー、(J)分子イメージング、(K)エピゲノム、(L)ｍｉＲＮＡ、(M)機能性ＲＮＡ
			臨床腫瘍学	1955	(A)抗がん物質探索・ケミカルバイオロジー、(B)化学療法、(C)分子標的治療、(D)内分泌療法、(E)ドラッグデリバリー、(F)物理療法、(G)遺伝子治療、(H)核酸治療、(J)細胞療法
			がん疫学・予防	1956	(A)バイオバンク、(B)民族疫学、(C)コーホート研究、(D)遺伝子環境交互作用、(E)予防介入研究、(F)化学予防、(G)がん研究と社会の接点
		ゲノム科学	ゲノム生物学	2301	(A)ゲノム構造多様性、(B)動物ゲノム、(C)植物ゲノム、(D)微生物ゲノム、(E)細菌叢ゲノム、(F)オルガネラゲノム、(G)ゲノム進化、(H)ゲノム構築、(J)ゲノム維持修復、(K)ゲノム機能発現、(L)遺伝子発現調節、(M)トランスクリプトーム、(N)プロテオーム、(P)メタボローム、(Q)エピゲノム、(R)ゲノムデータベース、(S)比較ゲノム
			ゲノム医科学	2302	(A)疾患関連遺伝子、(B)個別化医療、(C)遺伝子診断、(D)ヒトゲノム構造多様性、(E)ゲノム創薬、(F)再生医療、(G)ゲノムワイド関連解析、(H)ヒトゲノム配列再解析、(J)疾患モデル生物ゲノム、(K)疾患エピゲノミクス、(L)ヒト集団遺伝学、(M)遺伝統計学、(N)メディカルインフォマティクス
			システムゲノム科学	2303	(A)遺伝子ネットワーク、(B)蛋白質ネットワーク、(C)代謝ネットワーク、(D)発生分化、(E)合成生物学、(F)データベース生物学、(G)モデル化とシミュレーション、(H)バイオインフォマティクス、(J)データベース統合化、(K)ゲノム解析技術、(L)機能性ＲＮＡ、(M)エピゲノム制御
			応用ゲノム科学	2304	［産業ゲノム科学］ (A)産業動物ゲノム、(B)産業植物ゲノム、(C)ヒト・動物細菌叢、(D)産業微生物ゲノム、(E)マーカ育種、(F)ゲノム生物工学 ［環境ゲノム科学］ (G)環境ゲノム、(H)メタゲノム、(J)ゲノム共生、(K)生物多様性、(L)種の保全、(M)遺伝子資源、(N)バイオデータベース
		生物分子科学	生物分子科学	2401	(A)天然物有機化学、(B)二次代謝産物、(C)生物活性物質、(D)生体高分子、(E)化学修飾、(F)生体機能関連物質、(G)活性発現の分子機構、(H)構造活性相関、(J)生合成、(K)生物活性分子の設計・合成、(L)コンビナトリアル化学、(M)機器分析、(N)化学生態学、(P)プロテオミクス、(Q)ケミカルバイオロジー
		資源保全学	資源保全学	2501	(A)保全生物、(B)生物多様性保全、(C)系統生物保全、(D)遺伝子資源保全、(E)生態系保全、(F)在来種保全、(G)種子保全、(H)細胞・組織保全、(J)微生物保全
	生物学	基礎生物学	遺伝・ゲノム動態	5701	(A)分子遺伝、(B)細胞遺伝、(C)集団遺伝、(D)進化遺伝、(E)人類遺伝、(F)遺伝子多様性、(G)ゲノム構築・再編・維持、(H)ゲノム機能・発現、(J)発生遺伝、(K)行動遺伝、(L)変異原、(M)染色体、(N)モデル生物
			生態・環境	5702	(A)個体群、(B)生物社会、(C)種間関係、(D)群集、(E)生態系、(F)進化生態、(G)行動生態、(H)自然環境、(J)生理生態、(K)分子生態、(L)保全生態学
			植物分子生物・生理学	5703	(A)色素体機能・光合成、(B)植物ホルモン・成長生理・全能性、(C)オルガネラ・細胞壁、(D)環境応答、(E)植物微生物相互作用・共生、(F)代謝生理、(G)植物分子機能
			形態・構造	5704	(A)動物形態、(B)植物形態、(C)微生物形態、(D)比較内分泌、(E)分子形態学、(F)形態形成、(G)組織構築、(H)微細構造、(J)顕微鏡技術
			動物生理・行動	5705	(A)代謝生理、(B)神経生物、(C)神経行動、(D)行動生理、(E)動物生理化学
			生物多様性・分類	5706	(A)分類群、(B)分類体系、(C)進化、(D)遺伝的多様性、(E)集団・種多様性、(F)群集・生態系多様性、(G)分類形質、(H)系統、(J)種分化、(K)自然史、(L)博物館
		生物科学	構造生物化学	5801	(A)糖質、(B)脂質、(C)核酸、(D)タンパク質、(E)酵素、(F)遺伝子及び染色体、(G)生体膜及び受容体、(H)細胞間マトリックス、(J)細胞小器官、(K)翻訳後修飾、(L)分子認識及び相互作用、(M)変性とフォールディング、(N)立体構造解析及び予測、(P)ＮＭＲ、(Q)質量分析、(R)Ｘ線結晶解析、(S)高分解能電子顕微鏡解析
			機能生物化学	5802	(A)酵素の触媒機構、(B)酵素の調節、(C)アロステリック効果、(D)酵素異常、(E)遺伝子の情報発現と複製、(F)生体エネルギー変換、(G)金属タンパク質、(H)生体微量元素、(J)ホルモンと生理活性物質、(K)細胞情報伝達機構、(L)膜輸送と輸送タンパク質、(M)細胞内タンパク質分解、(N)細胞骨格、(P)免疫生化学、(Q)糖鎖生物学、(R)生物電気化学
			生物物理学	5803	(A)タンパク質・核酸の構造・動態・機能、(B)運動・輸送、(C)生体膜・受容体・チャンネル、(D)光生物、(E)細胞情報・動態、(F)脳・神経系の情報処理、(G)理論生物学・バイオインフォマティクス、(H)構造生物学、(J)フォールディング、(K)構造・機能予測、(L)１分子計測・操作、(M)バイオイメージング、(N)非平衡・複雑系
			分子生物学	5804	(A)DNA複製、(B)DNA損傷・修復、(C)組換え、(D)転写、(E)RNA、(F)翻訳、(G)タンパク質修飾、(H)分子間相互作用、(J)染色体構築・機能・分配
			細胞生物学	5805	(A)細胞構造・機能、(B)生体膜、(C)細胞骨格・運動、(D)細胞内情報伝達、(E)細胞間情報伝達、(F)細胞周期、(G)細胞質分裂、(H)核構造、(J)細胞間相互作用・細胞外マトリックス、(K)タンパク質分解、(L)クロマチン
			発生生物学	5806	(A)細胞分化、(B)幹細胞、(C)胚葉形成・原腸形成・体節形成、(D)器官形成、(E)受精、(F)生殖細胞、(G)遺伝子発現調節、(H)発生遺伝、(J)進化発生
			進化生物学	5807	(A)生命起源、(B)真核生物起源、(C)オルガネラ起源、(D)多細胞起源、(E)分子進化、(F)形態進化、(G)機能進化、(H)遺伝子進化、(J)進化生物学一般、(K)比較ゲノム、(L)実験進化学
		人類学	自然人類学	5901	(A)形態、(B)先史・年代測定、(C)生体機構、(D)分子・遺伝、(E)生態、(F)霊長類、(G)進化、(H)成長・老化、(J)社会、(K)行動・認知、(L)生殖・発生、(M)骨考古学、(N)地理的多様性
			応用人類学	5902	(A)生理人類学、(B)人間工学、(C)生理的多型性、(D)環境適応能、(E)全身的協関、(F)機能的潜在性、(G)テクノ・アダプタビリティー、(H)ソマトメトリー、(J)被服、(K)生体・適応、(L)体質・健康、(M)法医人類学、(N)医療人類学

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（生物系）	農学	農学	育種学	6001	(A)植物育種・遺伝、(B)育種理論、(C)遺伝資源・系統分化、(D)植物分子育種、(E)抵抗性・耐性、(F)変異創成・解析、(G)遺伝子・タンパク質、(H)染色体工学、(J)植物ゲノム情報、(K)品質・成分、(L)発育生理・発生遺伝
			作物学・雑草学	6002	(A)食用作物、(B)工芸作物、(C)飼料作物、(D)栽培体系、(E)作物品質・加工、(F)雑草科学、(G)雑草制御、(H)野生植物資源
			園芸学・造園学	6003	(A)果樹、(B)野菜、(C)花卉、(D)園芸利用、(E)園芸貯蔵・加工、(F)施設園芸、(G)造園、(H)景観形成・保全、(J)緑地計画
			植物病理学	6004	(A)病態、(B)感染生理、(C)植物・病原体相互作用、(D)病原性因子、(E)病害防除、(F)病害抵抗性、(G)系統分類、(H)感染・増殖
			応用昆虫学	6005	(A)応用動物、(B)鳥獣管理、(C)昆虫利用・機能開発、(D)昆虫病理、(E)養蚕・蚕糸、(F)昆虫生態、(G)昆虫生理、(H)昆虫分類、(J)害虫管理・生物的防除、(K)昆虫分子生物学、(L)昆虫行動
		農芸化学	植物栄養学・土壌学	6101	(A)植物成長・生理、(B)植物栄養代謝、(C)植物代謝調節、(D)肥料、(E)土壌分類、(F)土壌物理、(G)土壌化学、(H)土壌生物、(J)土壌環境
			応用微生物学	6102	(A)微生物学、(B)発酵生産、(C)微生物分類、(D)微生物遺伝・育種、(E)微生物酵素、(F)微生物代謝、(G)微生物機能、(H)微生物利用学、(J)環境微生物、(K)抗生物質生産、(L)微生物生態学、(M)微生物制御学、(N)遺伝子資源、(P)遺伝子発現
			応用生物化学	6103	(A)動物生化学、(B)植物生化学、(C)酵素利用学、(D)遺伝子工学、(E)タンパク質工学、(F)生物工学、(G)代謝工学、(H)細胞・組織培養、(J)酵素化学、(K)代謝生理、(L)遺伝子発現、(M)物質生産、(N)細胞応答、(P)情報伝達、(Q)微量元素
			生物生産化学・生物有機化学	6104	(A)生物活性物質、(B)細胞機能調節物質、(C)農薬科学、(D)植物成長調節物質、(E)情報分子、(F)生合成、(G)天然物化学、(H)生物無機化学、(J)物理化学、(K)分析化学、(L)有機化学、(M)生物制御化学、(N)分子認識
			食品科学	6105	(A)食品化学、(B)食糧化学、(C)食品生化学、(D)食品物理学、(E)食品工学、(F)食品機能、(G)食品保蔵、(H)食品製造・加工、(J)栄養化学、(K)栄養生化学、(L)食品安全性、(M)食品分析
		森林学	森林科学	6201	(A)森林生産・育種、(B)森林生態・保護・保全、(C)森林生物、(D)森林管理・政策、(E)森林風致、(F)森林利用、(G)緑化・環境保全林、(H)治山・砂防、(J)崩壊・地すべり・土石流、(K)水資源涵養・水質
			木質科学	6202	(A)組織構造・材形成、(B)材質・物性、(C)セルロース、(D)リグニン、(E)抽出成分・微量成分、(F)化学加工、(G)保存・木質文化、(H)乾燥・機械加工、(J)接着・木質材料、(K)強度・木質構造、(L)居住性・感性、(M)木質バイオマス、(N)パルプ・紙
		水産学	水産学一般	6301	(A)分類、(B)発生、(C)形態、(D)生理、(E)生態・行動、(F)漁業、(G)資源・資源管理、(H)増養殖、(J)遺伝・育種、(K)魚病、(L)水圏環境・保全、(M)海藻、(N)プランクトン、(P)微生物、(Q)有害藻類
			水産化学	6302	(A)生化学、(B)代謝・酵素、(C)水族栄養、(D)分子生物学、(E)生物工学、(F)生体高分子、(G)天然物化学、(H)分析化学、(J)食品化学、(K)食品加工・貯蔵、(L)食品衛生、(M)食品微生物
		農業経済学	農業経済学	6401	(A)農業経営、(B)農業政策、(C)農業経済、(D)農業金融、(E)農業史、(F)国際農業、(G)農業地域計画、(H)農村社会、(J)農業と環境、(K)フードシステム、(L)マーケティング、(M)食の安全、(N)農業倫理
		農業工学	農業土木学・農村計画学	6501	(A)水理、(B)水文、(C)土壌物理、(D)土質力学・応用力学、(E)土地改良施設、(F)材料・施工、(G)灌漑排水、(H)農地整備・農地計画、(J)地域計画・地域づくり、(K)地域環境・農村景観、(L)農村生態系、(M)水質汚濁・水環境、(N)物質循環、(P)土壌保全・防災
			農業環境工学	6502	(A)農業生産環境、(B)生物生産機械、(C)ポストハーベスト工学、(D)生物生産システム、(E)農作業技術管理、(F)農業労働科学、(G)流通管理、(H)生物環境調節、(J)施設園芸・植物工場、(K)バイオプロセシング、(L)自然エネルギー利用、(M)農業気象・微気象、(N)気象災害、(P)温暖化影響、(Q)環境緑化
			農業情報工学	6503	(A)画像処理・画像認識、(B)非破壊計測、(C)生体計測、(D)バイオセンシング、(E)バイオインフォマティックス、(F)リモートセンシング、(G)地理情報システム、(H)モデリング・シミュレーション、(J)コンピュータネットワーク、(K)ICT/知識処理、(L)農業ロボティクス、(M)精密農業、(N)生物環境情報、(P)農業情報、(Q)農作業情報
		畜産学・獣医学	畜産学・草地学	6601	(A)草地生態、(B)草地利用、(C)草地管理・保全、(D)飼料、(E)栄養・飼養、(F)家畜生産システム、(G)家畜管理・福祉、(H)野生鳥獣管理・利用、(J)畜産物利用、(K)畜産バイオマス
			応用動物科学	6602	(A)育種、(B)繁殖、(C)代謝・内分泌制御、(D)機能性物質、(E)発生工学、(F)クローン家畜、(G)家畜ゲノム、(H)野生動物保護・増殖
			基礎獣医学・基礎畜産学	6603	(A)遺伝、(B)発生、(C)生理、(D)形態、(E)薬理、(F)病理、(G)病態、(H)病原微生物、(J)寄生虫、(K)免疫、(L)生体情報、(M)行動
			応用獣医学	6604	(A)家畜衛生、(B)獣医公衆衛生、(C)トキシコロジー、(D)疾病予防・制御、(E)野生動物、(F)動物福祉、(G)人獣共通感染症、(H)疫学
			臨床獣医学	6605	(A)内科、(B)外科、(C)臨床繁殖・産科、(D)診断、(E)検査、(F)治療、(G)予後、(H)臨床病理・病態、(J)再生医療、(K)麻酔・鎮痛、(L)放射線科学、(M)動物看護
		境界農学	環境農学	6701	(A)環境分析、(B)環境汚染、(C)環境修復、(D)環境浄化、(E)水域汚染、(F)資源循環システム、(G)バイオマス、(H)遺伝子資源、(J)生物環境、(K)資源環境バランス、(L)地域農学
			応用分子細胞生物学	6702	(A)遺伝子・染色体工学、(B)タンパク質・糖鎖工学、(C)代謝工学、(D)オルガネラ工学、(E)細胞工学、(F)発現制御、(G)発生・分化制御、(H)細胞間相互作用、(J)分子間相互作用、(K)バイオセンサー、(L)細胞機能、(M)分子情報、(N)機能分子設計
	医歯薬学	薬学	化学系薬学	6801	(A)有機化学、(B)合成化学、(C)生体関連物質、(D)生薬・天然物化学、(E)有機反応学、(F)ヘテロ環化学、(G)不斉合成
			物理系薬学	6802	(A)物理化学、(B)分析化学、(C)製剤学、(D)生物物理化学、(E)同位体薬品化学、(F)生命錯体化学、(G)分子構造学、(H)構造生物学、(J)イメージング、(K)ドラッグデリバリー、(L)情報科学
			生物系薬学	6803	(A)生化学、(B)分子生物学、(C)免疫学、(D)細胞生物学、(E)発生生物学、(F)薬理学、(G)薬効解析学、(H)神経生物学
			創薬化学	6804	(A)医薬品化学、(B)医薬分子設計、(C)生物活性物質、(D)医薬分子機能学、(E)ゲノム創薬、(F)レギュラトリーサイエンス
			環境系薬学	6805	(A)環境衛生学、(B)環境化学、(C)環境動態学、(D)食品衛生学、(E)栄養化学、(F)微生物・感染症学、(G)薬用資源学、(H)中毒学
			医療系薬学	6806	(A)臨床薬学、(B)薬物動態・代謝学、(C)医療薬剤学、(D)医薬品情報・安全性学、(E)臨床化学、(F)薬剤経済学、(G)オーダーメード医療、(H)社会薬学、(J)病院薬局・保険薬局管理学

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（生物系）	（医歯薬学）	基礎医学	解剖学一般（含組織学・発生学）	6901	(A)肉眼解剖学、(B)機能解剖学、(C)臨床解剖学、(D)比較解剖学、(E)画像解剖学、(F)形質人類学、(G)発生学・形態形成学、(H)先天異常学・奇形学、(J)実験形態学、(K)解剖学教育、(L)細胞学、(M)組織学、(N)細胞分化・組織形成、(P)細胞機能形態学、(Q)細胞微細形態学、(R)分子形態学、(S)細胞組織化学、(T)顕微鏡技術
			生理学一般	6902	(A)分子・細胞生理学、(B)生体膜・チャネル・トランスポーター・能動輸送、(C)受容体・細胞内シグナル伝達、(D)刺激分泌連関、(E)上皮機能、(F)遺伝・受精・発生・分化、(G)細胞増殖・細胞死、(H)細胞運動・形態形成・細胞間相互作用、(J)微小循環・末梢循環・循環力学・循環調節、(K)換気力学・血液ガス・呼吸調節、(L)消化管運動・消化吸収、(M)腎・体液・酸塩基平衡、(N)血液凝固・血液レオロジー、(P)病態生理、(Q)システム生理・フィジオーム、(R)比較生理学・発達生理学・ゲノム生理学
			環境生理学（含体力医学・栄養生理学）	6903	(A)環境生理学、(B)体力医学、(C)栄養生理学、(D)適応・協関生理学、(E)生体リズム、(F)発達・成長・老化、(G)ストレス、(H)宇宙医学、(J)行動生理学、(K)生物時計、(L)温熱生理学、(M)摂食調節、(N)社会環境、(P)睡眠・覚醒、(Q)生殖生理学
			薬理学一般	6904	(A)腎臓、(B)骨格筋・平滑筋、(C)消化器、(D)炎症・免疫、(E)生理活性物質、(F)中枢・末梢神経、(G)脊髄・痛み、(H)受容体・チャネル・輸送系・シグナル情報伝達系、(J)心血管・血液、(K)創薬・ゲノム薬理学、(L)薬物治療・トキシコロジー、(M)生薬・天然物薬理学
			医化学一般	6905	(A)生体分子医学、(B)細胞医化学、(C)ゲノム医化学、(D)発生医学、(E)再生医学、(F)加齢医学、(G)高次生命医学、(H)細胞内シグナル伝達
			病態医化学	6906	(A)代謝異常学、(B)分子病態学、(C)分子遺伝子診断学、(D)分子腫瘍学、(E)分子病態栄養学
			人類遺伝学	6907	(A)ゲノム医科学、(B)分子遺伝学、(C)細胞遺伝学、(D)薬理遺伝学、(E)遺伝生化学、(F)遺伝疫学、(G)遺伝診断学、(H)遺伝子治療学、(J)遺伝カウンセリング、(K)生命倫理学、(L)エピジェネティクス
			人体病理学	6908	(A)脳・神経、(B)消化器・唾液腺、(C)呼吸器・縦隔、(D)循環器、(E)泌尿生殖器・内分泌、(F)骨・関節・筋肉・皮膚・感覚器、(G)血液、(H)分子病理、(J)地理病理、(K)診断病理学、(L)テレパソロジー、(M)環境病理、(N)移植病理
			実験病理学	6909	(A)動物、(B)細胞、(C)分子、(D)超微形態、(E)腫瘍、(F)炎症、(G)中毒病理、(H)発生病理、(J)疾患モデル動物、(K)再生医学
			寄生虫学（含衛生動物学）	6910	(A)蠕虫、(B)原虫、(C)媒介節足動物、(D)病害動物、(E)分子、(F)疫学、(G)発生、(H)遺伝、(J)免疫、(K)熱帯病・国際医療
			細菌学（含真菌学）	6911	(A)病原性、(B)感染免疫、(C)疫学、(D)遺伝、(E)分類、(F)診断、(G)構造・生理
			ウイルス学	6912	(A)分子、(B)細胞、(C)個体、(D)疫学、(E)病原性、(F)診断・治療、(G)感染防御・ワクチン、(H)プリオン
			免疫学	6913	(A)サイトカイン、(B)抗体、(C)抗原認識、(D)リンパ球、(E)自然免疫、(F)獲得免疫、(G)粘膜免疫、(H)免疫記憶、(J)免疫寛容・自己免疫、(K)免疫監視・腫瘍免疫、(L)免疫不全、(M)アレルギー・免疫関連疾患、(N)免疫制御・移植免疫
		境界医学	医療社会学	7001	(A)病院管理学、(B)医療管理学、(C)医療情報学、(D)バイオエシックス、(E)医学史、(F)医学・薬学教育、(G)医療経済学、(H)リスクマネジメント、(J)医療の質、(K)地域医療学、(L)医療政策学、(M)社会保障学、(N)介護・福祉、(P)医療政策評価、(Q)感染制御学
			応用薬理学	7002	(A)臨床薬理学、(B)臨床試験・倫理、(C)薬物治療学、(D)医薬品副作用・薬物相互作用、(E)薬物輸送学、(F)ファーマコゲノミックス、(G)同位体医療薬学、(H)機器医療薬学、(J)薬物代謝酵素・トランスポーター、(K)イメージング、(L)ヒト組織利用研究、(M)薬物依存・薬剤感受性、(N)遺伝子診断・治療、(P)ドラッグデリバリー、(Q)薬剤疫学
			病態検査学	7003	(A)臨床検査医学、(B)臨床病理学、(C)臨床化学、(D)免疫血清学、(E)臨床検査システム、(F)遺伝子検査学、(G)臨床微生物学、(H)腫瘍検査学、(J)臨床血液学、(K)生理機能検査学
		社会医学	衛生学	7101	(A)環境保健、(B)予防医学、(C)産業衛生、(D)環境疫学、(E)分子遺伝疫学、(F)医学統計、(G)生命倫理、(H)環境中毒、(J)産業中毒、(K)環境生理、(L)地球環境、(M)災害事故、(N)人間工学、(P)交通医学、(Q)食品衛生
			公衆衛生学・健康科学	7102	(A)地域保健、(B)母子保健、(C)学校保健、(D)成人保健、(E)保健栄養、(F)健康管理、(G)健康教育、(H)医療行動学、(J)人口問題、(K)国際保健学、(L)保健医療行政、(M)病院管理学、(N)医療情報学、(P)介護保険、(Q)疫学、(R)健康診断、(S)集団検診
			法医学	7103	(A)法医学、(B)医の倫理、(C)犯罪精神医学、(D)矯正医学、(E)保険医学、(F)診療録管理学、(G)法医鑑定学、(H)アルコール医学、(J)法歯学、(K)ＤＮＡ多型医学、(L)法医病理学
		内科系臨床医学	内科学一般（含心身医学）	7201	(A)心療内科学、(B)ストレス科学、(C)東洋医学、(D)代替医療、(E)緩和医療、(F)総合診療、(G)プライマリーケア、(H)老年医学
			消化器内科学	7202	(A)上部消化管学（食道、胃、十二指腸） (B)下部消化管学（小腸、大腸） (C)肝臓学 (D)胆道学、膵臓学 (E)消化器内視鏡学
			循環器内科学	7203	(A)臨床心血管病態学 (B)分子心臓病態学 (C)分子血管病態学
			呼吸器内科学	7204	(A)閉塞性肺疾患、(B)非閉塞性肺疾患〔癌、肺線維症、呼吸器感染症、その他〕
			腎臓内科学	7205	(A)腎臓学、(B)高血圧学、(C)水・電解質代謝学、(D)人工透析学
			神経内科学	7206	(A)神経分子病態学、(B)神経病態免疫学、(C)臨床神経分子遺伝学、(D)臨床神経生理学、(E)臨床神経形態学、(F)臨床神経心理学、(G)神経機能画像学
			代謝学	7207	(A)エネルギー・糖質代謝異常、(B)メタボリックシンドローム、(C)脂質代謝異常、(D)プリン代謝異常、(E)骨・カルシウム代謝異常、(F)電解質代謝異常
			内分泌学	7208	(A)内分泌学、(B)生殖内分泌学
			血液内科学	7209	(A)血液内科学、(B)血液腫瘍学、(C)血栓・止血学、(D)輸血学、(E)造血幹細胞移植学、(F)血液免疫学、(G)免疫制御学

系	領域・分野			コード	キーワード（記号）
（生物系）	（医歯薬学）	（内科系臨床医学）	膠原病・アレルギー内科学	7210	(A)膠原病学、(B)リウマチ学、(C)アレルギー学、(D)臨床免疫学、(E)炎症学
			感染症内科学	7211	(A)感染症診断学、(B)感染症治療学、(C)感染症防御学、(D)国際感染症学、(E)感染疫学、(F)日和見感染症
			小児科学	7212	(A)発達小児科学、(B)成育医学、(C)小児神経学、(D)小児内分泌学、(E)小児代謝・栄養学、(F)遺伝・先天異常学、(G)小児保健学、(H)小児社会医学、(J)小児血液学、(K)小児腫瘍学、(L)小児免疫・アレルギー・膠原病学、(M)小児循環器学、(N)小児呼吸器学、(P)小児感染症学、(Q)小児腎・泌尿器学、(R)小児消化器病学
			胎児・新生児医学	7213	(A)出生前診断、(B)胎児医学、(C)先天異常学、(D)新生児医学、(E)未熟児医学
			皮膚科学	7214	(A)皮膚診断学、(B)皮膚病理学、(C)皮膚腫瘍学、(D)レーザー治療学、(E)皮膚生理学、(F)色素細胞学、(G)性感染症学、(H)皮膚感染症、(J)皮膚炎症・再生学
			精神神経科学	7215	(A)精神薬理学、(B)臨床精神分子遺伝学、(C)精神生理学、(D)精神病理学、(E)社会精神医学、(F)児童・思春期精神医学、(G)老年精神医学、(H)司法精神医学、(J)神経心理学、(K)リエゾン精神医学、(L)精神科リハビリテーション医学
			放射線科学	7216	(A)画像診断学 （含放射線診断学）、(B)エックス線・CT、(C)核磁気共鳴画像(MRI)、(D)核医学（PETを含む）、(E)放射性医薬品・造影剤、(F) 放射線管理、(G)医用画像工学、(H)インターベンショナルラジオロジー（IVR）、(J)血管形成術・骨形成術・血管塞栓術、(K)ラジオ波治療・ステント治療・リザーバー治療、(L)放射線治療学、(M)放射線腫瘍学、(N)放射線治療物理学、(P)放射線治療生物学、(Q)粒子線治療
		外科系臨床医学	外科学一般	7301	(A)外科総論、(B)移植外科学、(C)人工臓器学、(D)血管外科学、(E)実験外科学、(F)内分泌外科学、(G)乳腺外科学、(H)代謝栄養外科学
			消化器外科学	7302	(A)食道外科学、(B)胃十二指腸外科学、(C)小腸大腸肛門外科学、(D)肝臓外科学、(E)脾門脈外科学、(F)胆道外科学、(G)膵臓外科学
			胸部外科学	7303	(A)心臓大血管外科学、(B)呼吸器外科学、(C)縦隔外科学、(D)胸膜外科学
			脳神経外科学	7304	(A)頭部外傷学、(B)脳血管障害学、(C)脳血管内外科学、(D)実験脳外科学、(E)神経画像診断学、(F)脳腫瘍学、(G)機能脳神経外科学、(H)小児脳神経外科学、(J)脊髄・脊椎疾患学、(K)脳外科手術機器学、(L)放射線脳外科学
			整形外科学	7305	(A)脊椎脊髄病学、(B)筋・神経病学、(C)理学療法学、(D)運動器リハビリテーション学、(E)骨・軟部腫瘍学、(F)四肢機能再建学、(G)小児運動器学、(H)運動器外傷学、(J)関節病学、(K)リウマチ病学、(L)骨・軟骨代謝学、(M)スポーツ医学
			麻酔・蘇生学	7306	(A)麻酔学、(B)蘇生学、(C)周術期管理学、(D)疼痛管理学
			泌尿器科学	7307	(A)腫瘍学、(B)排尿学、(C)結石症学、(D)感染症学、(E)再生医学、(F)奇形学、(G)副腎外科学、(H)腎移植、(J)アンドロロジー
			産婦人科学	7308	(A)産科学、(B)生殖医学、(C)婦人科学、(D)婦人科腫瘍学、(E)更年期医学
			耳鼻咽喉科学	7309	(A)耳科学、(B)鼻科学、(C)頭頸部外科学、(D)気管食道学、(E)喉頭科学、(F)咽頭科学
			眼科学	7310	(A)臨床研究、(B)疫学研究、(C)社会医学、(D)眼生化学・分子生物学、(E)眼細胞生物学、(F)眼遺伝学、(G)眼組織学、(H)眼病理学、(J)眼薬理学、(K)眼生理学、(L)眼発生・再生医学、(M)眼免疫学、(N)眼微生物学・感染症学、(P)視能矯正学、(Q)眼光学、(R)眼医工学
			小児外科学	7311	(A)先天性消化器疾患学、(B)先天性心大血管外科学、(C)胎児手術学、(D)小児泌尿器科学、(E)小児呼吸器外科学、(F)小児腫瘍学
			形成外科学	7312	(A)再建外科学、(B)創傷治癒学、(C)マイクロサージェリー学、(D)組織培養・移植学、(E)再生医学
			救急医学	7313	(A)集中治療医学、(B)外傷外科学、(C)救急蘇生学、(D)急性中毒学、(E)災害医学
		歯学	形態系基礎歯科学	7401	(A)口腔解剖学（含組織学・発生学）、(B)口腔病理学、(C)口腔細菌学
			機能系基礎歯科学	7402	(A)口腔生理学、(B)口腔生化学、(C)歯科薬理学
			病態科学系歯学・歯科放射線学	7403	(A)実験腫瘍学、(B)免疫・感染・炎症、(C)歯科放射線学一般、(D)歯科放射線診断学
			保存治療系歯学	7404	(A)保存修復学、(B)歯内療法学
			補綴系歯学	7405	(A)歯科補綴学一般、(B)有床義歯補綴学、(C)冠橋義歯補綴学、(D)顎顔面補綴学、(E)顎口腔機能学
			歯科医用工学・再生歯学	7406	(A)歯科理工学、(B)歯科材料学、(C)生体材料学、(D)接着歯学、(E)再生歯学、(F)歯科インプラント学
			外科系歯学	7407	(A)口腔外科学一般、(B)臨床腫瘍学、(C)歯科麻酔学、(D)病態検査学、(E)口腔顎顔面再建外科学
			矯正・小児系歯学	7408	(A)歯科矯正学、(B)小児歯科学、(C)小児口腔保健学、(D)顎口腔機能機構学
			歯周治療系歯学	7409	(A)歯周免疫機能学、(B)歯周外科学、(C)歯周予防学
			社会系歯学	7410	(A)口腔衛生学（含公衆衛生学・栄養学）、(B)予防歯科学、(C)歯科医療管理学、(D)歯科法医学、(E)老年歯科学、(F)歯科心身医学
		看護学	基礎看護学	7501	(A)看護哲学、(B)看護倫理学、(C)看護技術、(D)看護教育学、(E)看護管理学、(F)看護政策・行政、(G)災害看護、(H)看護の歴史
			臨床看護学	7502	(A)重篤・救急看護学、(B)周手術期看護学、(C)慢性病看護学、(D)リハビリテーション看護学、(E)ターミナルケア、(F)がん看護学
			生涯発達看護学	7503	(A)家族看護学、(B)母性・女性看護学、(C)助産学、(D)小児看護学
			地域・老年看護学	7504	(A)地域看護学、(B)公衆衛生看護学、(C)学校看護、(D)産業看護、(E)老年看護学、(F)精神看護学、(G)在宅看護、(H)訪問看護、(J)家族看護学、(K)リハビリテーション看護学

最先端・次世代研究開発支援プログラム
研究計画調書（応募内容ファイル）作成・記入要領

「最先端・次世代研究開発支援プログラム」の研究計画調書は、以下の２つから構成されます。

Ⅰ．応募情報：府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の「電子申請システム」に応募情報（Ｗｅｂ入力項目）に入力し、登録する。

Ⅱ．応募内容ファイル：様式を日本学術振興会の最先端・次世代研究開発支援プログラムホームページ（http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/index.html）からダウンロードして作成する。作成後に、e-Radの「電子システム」にアクセスし、「Ⅰ．応募情報」に応募内容ファイル（添付ファイル項目）を添付する。

上記の研究計画調書（ⅠとⅡの両方）のe-Radによる送信と研究計画調書（Ⅱのみ）の紙媒体での提出の両方を行うことにより、本プログラムに応募したこととなりますのでご留意ください。（提出の方法については、公募要領Ｐ８ Ⅱ２（２）応募書類の提出方法、Ｐ１４ Ⅲ３「申請書類（研究計画調書）の提出等」を参照）

なお、上記「Ⅰ．応募情報」の入力・作成方法については、別添「最先端・次世代研究開発支援プログラム研究計画調書（応募情報）作成・記入要領」に基づき、作成してください。

研究計画調書（応募内容ファイル）

研究計画調書（応募内容ファイル）については、以下の一般的留意事項並びに各項目における記入要領にしたがって作成してください。

英語による記入も認めますが、その場合でも１頁目（「研究課題名」、「研究者氏名」を除く）は日本語で記入してください。（２頁目以降を英語で表記した様式も用意する予定です。）（「研究課題名」、「研究者氏名」は、日本語以外の言語でもよいが、必ずe-Radの応募情報に登録した情報と一致するようにしてください。）

なお、研究計画調書提出後の差し替えや訂正は認めません。

１．一般的留意事項について

（１）採択された研究課題については、本調書の２頁目（１．研究概要）を公表する予定です。

（２）本調書は、以下の書式に合わせて作成してください。

・行間をつめすぎず、わかりやすく記入してください。
・余白の設定等を変更しないでください。
・用紙のサイズ、文字の大きさ等は以下のとおりとしてください。

用紙のサイズ	Ａ４判縦型
文字の大きさ	１０．５ポイント（図表内の文字は除く。） ゴシック、アンダーライン等は適宜可。
色	白黒（カラー不可）

・１２頁「９．研究者」以降の欄については、記入する分量に応じて枠の大きさを変更しても差し支えありませんが、本調書全体で２０頁以内（１２頁以降を９頁以内で記入）となるように記入してください。
・本調書以外の資料を提出することは厳禁です。

２．各項目における記入要領について

※１頁目の各項目については、府省共通研究開発管理システム（ｅ－Ｒａｄ）にＷｅｂ入力する研究計画調書（応募情報）の内容と必ず一致させてください。

－１頁目－

●「応募区分」欄

応募する研究課題の成果が寄与するイノベーションの区分について、グリーン・イノベーション又はライフ・イノベーションのいずれかを選択（該当する□を■）してください。

●「研究課題名」欄

本プログラムの研究内容を具体的に表すような研究課題名（一般的、抽象的な表現は避けてください。）を４０字程度（全角のみ）で記入してください。

（アルファベット、数字、記号等もすべて１字としてカウントします。）

●「審査希望分野（系）」欄

審査を希望する系を「理工系」、「生物系」、「人文社会系」の中から１つ選択（該当する□を■）してください。

●「キーワード」欄

（１）一覧表キーワード

応募課題の研究内容について、別表「専門分野等一覧表」の中から関連が深いものを順に５つ以内で選択し記入してください。（最低１つは選定してください）。

（２）一覧表以外のキーワード

一覧表以外で適切なキーワードがある場合は、２つ以内で記入してください。

●「研究者氏名」欄

応募する研究者の氏名を記入してください。

●「生年月日（H22.4.1現在）」欄

応募する研究者の生年月日（西暦）を記入してください。また、〔　　〕内には、平成２２年４月１日現在の満年齢を記入してください。

（記入例）１９７４．０８．２０〔満３５歳〕

●「性別」欄

応募する研究者の性別（男・女）を記入してください。

●「特例（該当する場合のみ記入）」

応募要件における年齢制限の特例により応募する研究者については、下記①～④のうち、応募要件を満たすこととなった理由を記入してください。記入にあたっては、下表右欄の「記入方法」欄に記載している略語（外国人の場合は、①～④の記号でも可）で記入してください。なお、④の育児休暇を取得した者で①～③のいずれかにも該当する者は、両方を記入してください。

（記入例）２臨床、育休

ただし、女性研究者及び満４５歳以下の男性研究者については、記入する必要はありません。

特例の理由	記入方法
①　医学、歯学又は獣医学を履修する４年制の博士課程修了者（次の②、③を除く）	４博
②　法律（医師法（平成12年の法改正前）、歯科医師法又は獣医師法）に定める臨床研修を修了した者で、医学（次の③を除く）、歯学又は獣医学を履修する	臨床

４年制の博士課程修了者	
③　医師法（平成12年の改正法）により義務付けられた２年以上の臨床研修を終了した者で、医学を履修する４年制の博士課程修了者	２臨床
④　過去５年以内（平成17年４月２日以降）に育児休暇を取得した者	育休

●「所属機関」欄

応募する研究者が所属する機関名を記入してください。

なお、現在海外に在住している研究者の場合は、採択された場合に所属する予定の機関（e-Rad に研究者情報が登録され、パスワード・ＩＤを付与された機関）を記入してください。

（海外に在住している研究者は、「１０．特記事項」に現在の所属機関や帰国スケジュール等も記入してください。）

●「部局等」欄

応募する研究者が所属している部局等を記入してください。

なお、現在海外に在住している研究者の場合は、採択された場合に所属する予定の機関（e-Rad に研究者情報が登録され、パスワード・ＩＤを付与された機関）における所属予定の部局等を記入してください。

●「所在都道府県名」欄

「部局等」欄に記入した部局等が所在する都道府県名を記入してください。

【注】研究機関の本部が所在する都道府県ではなく、応募する研究者が所属している（研究に従事している）部局等（海外在住者は、採択された場合に所属予定の部局等）が所在する都道府県を記入してください。　（記入例）千葉県

●「職」欄

応募する研究者の職名を記入してください。

なお、現在海外に在住している研究者の場合は、採択された場合に所属する予定の機関（e-Rad に研究者情報が登録され、パスワード・ＩＤを付与された機関）における予定の職を記入してください。

●「学位」欄

応募する研究者の学位を記入してください。

●「現在の専門」欄

応募する研究者の現在の専門を記入してください。

●「エフォート」欄

本応募課題が採択される場合を想定した時間の配分率（１～１００の整数）を記入してください。

時間の配分率の決定にあたっては、総合科学技術会議におけるエフォートの定義である「研究者の年間の全仕事時間を１００％とした場合、そのうち当該研究の実施に必要となる時間の配分率（%）」という考え方で決定してください。なお、「全仕事時間」とは研究活動の時間のみを指すのではなく、教育活動・管理業務等を含めた実質的な全仕事時間を指します。

●「研究経費」欄

「研究経費」欄には、研究計画に基づき、年度別・使用内訳別に応募研究経費（間接経費を含む）を記入してください。「研究経費の合計（Ａ＋Ｂ）」欄には、当該年度の直接経費（Ａ）と間接経費（Ｂ）の合計額を記入してください。

間接経費（Ｂ）については、直接経費（Ａ）の３０％（千円未満の端数は切り捨て）で記入してください。なお、間接経費を受け入れない研究機関に所属する研究者の場合は、必ず間接経費（Ｂ）欄は全て「０」を記入してください。

入力にあたって、金額は千円単位で記入し、千円未満の端数は切り捨ててください。
また、各年度において該当のない費目や研究期間終了後（研究期間が３年以内の場合）の年度の全ての費目については、必ず全ての欄に「０」を記入してください。
なお、各年度の「直接経費（A)」欄は、１０～１１頁「８．経費の内訳」欄における各年度の費目ごとの金額と必ず一致するようにしてください。
【注】「研究経費の合計（Ａ＋Ｂ)」の「総計」欄の［　　］内の金額は、年度数×５千万円、総額２億円を超えない金額となるようにしてください。

－２頁目－
●「１．研究概要」欄
調書に記載している指示に従って１，０００字以内（英語の場合は、３００ｗｏｒｄ以内）で記述してください。図表を使用せずに、文章のみで記入してください。
なお、文字数のカウント方法については、１頁「研究課題名」と同様です。

－３～４頁目－
●「２．研究目的」欄
調書に記載している指示に従って記述してください。
なお、地域の特色を活かした研究の場合、その内容も記入してください。

－５～６頁目－
●「３．研究計画・方法」欄
調書に記載している指示に従って記述してください。
最初の頁（５頁）に全体計画、次の頁（６頁）に各年度の計画を記入してください。

－７頁目－
●「４．研究成果・波及効果」欄
調書に記載している指示に従って記述してください。

－８頁目－
●「５．研究環境・準備状況等」、「６．人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄
調書に記載している指示に従って記述してください。

－９頁目－
●「７．研究経費の支出計画」欄
調書に記載している指示に従って記述してください。なお、「８．経費の内訳」に記載された内容と相違がないように記述してください。

－１０頁～１１頁
●「８．経費の内訳」欄
「経費区分」欄には、年度ごとにそれぞれの経費の支出計画について記入してください。それぞれの費目の内訳については、内容がある程度分かるように記入してください。
年度ごとの「合計」欄及び各費目の合計は、１頁目「研究経費」欄の各年度ごとの金額と必ず一致するようにしてください。
各区分の項目の内容により、必要に応じ、行の追加・削除を行い記入してください。
頁の追加はできません。
なお、各経費の考え方については、公募要領Ｐ１０「別表」に従ってください。

※これまでの項目については、必ず指定された頁内におさまるように記入してください。
なお、これ以下の項目については、記入する分量に応じて枠を変更しても構いません。
ただし、本調書全体で２０頁以内（「９．研究者」欄以降で９頁以内）となるようにしてください。

－１２頁～

●「９．研究者」欄

調書に記載している指示に従って記述してください。

なお、「９．（２）②現在の研究活動、③受入予定の研究費」に記入するエフォートは、研究テーマごとに、全仕事時間（研究活動に加えて、教育活動・管理業務等を含めた実質的な全仕事時間）を１００％とした場合、そのうち当該研究の実施に要する時間の比率（％）（整数）を記入してください。

●「１０．特記事項」欄

本欄は、応募時に海外に在住する研究者は必ず記入してください。このほか、特記すべき事情があれば記述してください。

（別添）

応募書類の提出方法について

「最先端・次世代研究開発支援プログラム」の応募にあたっては、下記の書類を独立行政法人日本学術振興会へ提出してください。

記

１．機関長による申請に係る公文書　　原本　**１部**

○　日本学術振興会の本プログラムホームページから「日本学術振興会宛公文書」様式をダウンロードして作成し、機関長の公印を押印し提出してください。なお、研究機関においては、応募する全ての研究者について、公募要領Ｐ１「Ⅰ　３．（１）研究者の要件」を満たしていることを確認した上で、応募してください。

２．研究計画調書（応募内容ファイル）　〔両面、左側のり付け、左側穴あけ〕
１課題につき３０部

○　「研究計画調書」（応募内容ファイル）〔右肩に 応募内容ファイル と記載のある調書〕をＡ４版で両面印刷し、左側をのり付け製本し、左側に２つ穴を開けたものを提出してください。なお、製本は、製本テープでも構いませんが、ステイプル（ホッチキス）は使用しないでください。
※「研究計画調書」（応募情報）については、紙媒体での提出の必要はありません。

３．事務担当者連絡票　**１部**

○　研究機関において本プログラム関する連絡や問い合わせ等に対応できる事務担当者を１機関１名登録していただきます。日本学術振興会の本プログラムホームページ」から「事務担当者連絡票」様式をダウンロードして作成し提出してください。

【注意】各機関においては、機関内の応募課題を全てを取りまとめの上、上記の応募書類を一括で提出してください。分割で提出された場合、受理できないことがあり得ますので、十分にご注意ください。

〔別添資料〕

「最先端・次世代研究開発支援プログラム」公募説明会の開催について

「最先端・次世代研究開発支援プログラム」の公募説明会を下記のとおり開催します。

出席希望者のある場合は、独立行政法人日本学術振興会の本プログラムホームページ（http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/index.html）より「公募説明会登録票」をダウンロードし、平成２２年４月１２日（月）１７時までに下記担当あてに電子メールにて送付してください。

記

１　日時及び場所

①　平成２２年４月１４日（水）
大阪大学コンベンションセンター３階 MO ホール【別紙「案内図」参照】
13:30 ～ 15:00　第１回　主に中国・四国、九州地区の研究機関
15:30 ～ 17:00　第２回　主に北陸・東海、近畿地区の研究機関

②　平成２２年４月１６日（金）
東京大学大講堂（安田講堂）【別紙「案内図」参照】
13:30 ～ 15:00　第３回　主に北海道、東北、関東甲信越地区の研究機関

３　内　容：公募要領、応募書類等についての説明及び質疑応答

４　注意事項：

①　会場のスペース等の関係により、各回の対象地域を概ね区分させていただくとともに、１機関の出席者を全体で３名以内とさせていただきます。出席者はどなたでも構いませんが、研究機関でとりまとめの上、事前に登録してください。

②　本説明会では、下記ホームページに掲載している様式（公募要領、研究計画調書、記入要領、Ｑ＆Ａ等）を資料として使用する予定です。
お手数ですが、参加される方は、下記ホームページに掲載した全ての様式を各自でプリントアウトし、当日必ずご持参くださるようお願いします。

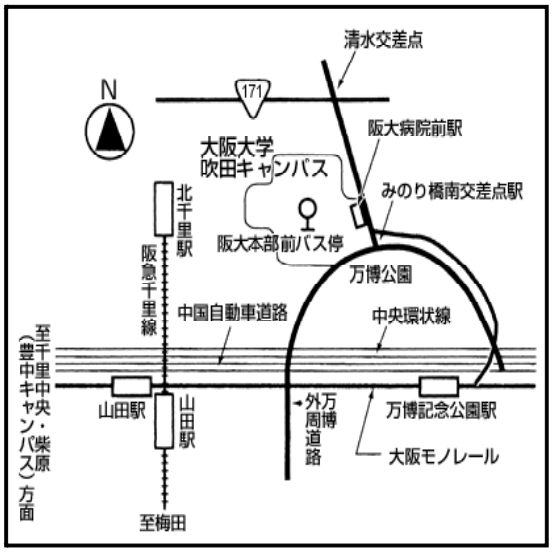
＊「最先端・次世代研究開発支援プログラム」公募・申請関係様式掲載ページ
http://www.jsps.go.jp/j-jisedai/index.html

【本件担当】独立行政法人日本学術振興会研究事業部基金第二課
最先端・次世代研究開発支援プログラム事務局
電　話　：　０３－３２６３－１７３８
ＦＡＸ　：　０３－３２３７－８３０７
E-mail　：　jisedai-jsps@jsps.go.jp

（別紙）

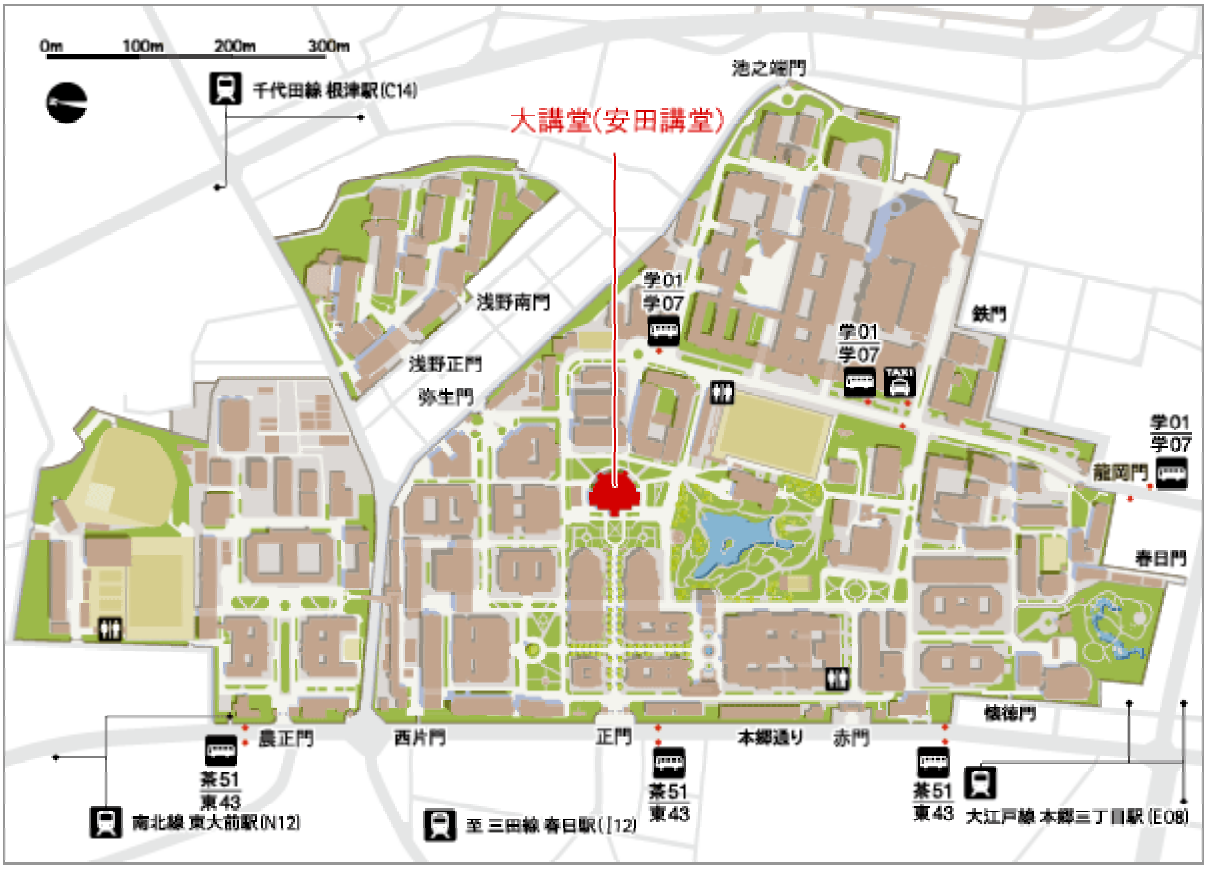
＜大阪大学コンベンションセンター案内図＞

位置図



吹田キャンパス建物配置

（会場 ： 3階 MOホール）

大阪大学 コンベンションセンター
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 大阪大学コンベンションセンター
TEL 06-6879-7171

東京大学大講堂（安田講堂）案内図